

かすがらいふ



はじめに

この度は『かすがらいふ』を手にとっていただきありがとうございます！
かすがらいふ編集委員会委員長の小川奈々です。

この『かすがらいふ』は講義内容の紹介や、合格体験記、生活体験記など、春日エリアでの生活に関する様々な情報が掲載されてる学生情報誌です。

『かすがらいふ』は学生が主体となり、記事の執筆からレイアウト、製本までの全てを行っています。ですので本誌を読めば学生目線で筑波大学について知ることができます。また本誌の読者には、入試や大学生活について不安がある人もいるかもしれません。本誌は皆さんと同じような経験をしてきた先輩たちにより、作られています。

『かすがらいふ』によって、皆さんの不安が少しでも解消されると幸いです。

来年の春。皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

2017 年度かすがらいふ編集委員会
委員長



1. 学類紹介	p.4
知識情報・図書館学類	p.4
情報メディア創成学類	p.6
2. 授業紹介	p.8
全学共通科目	p.8
専門科目	p.14
3. 専攻紹介	p.18
4. ゼミ紹介	p.21
5. 合格体験記	p.23
知識情報・図書館学類	p.24
情報メディア創成学類	p.36
6. 生活体験記	p.48
学生宿舍	p.49
アパート	p.52
自宅通学	p.55
7. サークル	p.57
8. アルバイト	p.58
9. 筑波大学の一年間	p.59
10. 学費・宿舍・奨学金	p.60
11. 筑波大学の施設	p.62
12. 春日エリアの施設	p.64
13. 筑波大学附属図書館	p.66
14. 用語集	p.67

1. 学類紹介

知識情報・図書館学類

学類長 歳森 敦

先日、Amazon ビデオで「アイアンクラッド」という B 級映画をストリーミングで見ました。ちなみに、その日までタイトルも知らなかったこの映画を見る気になったのは、「視聴履歴に基づくお勧め」に十字軍の騎士風のおじさんが俯き加減に立っているジャケットが表示され、それに惹かれたからです。実際に映画を見ると、おじさんはやっぱり十字軍帰りのテンブル騎士団の騎士で、心に傷を負っており……。いけない、これじゃあ学類紹介じゃなく、映画紹介だ。軌道修正。現在では、映画を楽しむにも、映画館で見る、テレビ放送で見る、ケーブルテレビで見る、レンタルビデオ店で借り、動画配信サービスで見るなど様々な見方が選択できるようになりました。見るためのデバイスだって家庭用のテレビで見る人もいれば、スマートフォンで見る人もいるでしょう。よく考えると、映像メディアの視聴環境はとても多様になっているし、環境そのものがダイナミックに変化している最中であることに気がつきます。例えば、近所のレンタルビデオ店はビデオのコーナーの面積を減らしています。数年したら実店舗で DVD や Blu-ray のメディアを貸し出すという業態は無くなっているかもしれません。現代社会にこうした変化を生みだしている原動力は、インターネットに代表される情報通信技術だと思います。情報学群では情報技術や情報そのものを専門分野として学びますが、知識情報・図書館学類はその中でも、社会や人間の要素を中心に学びます。情報によって人や社会をどう変えるか、あるいは人や社会のために情報をどう使うか、そのための情報技術はどうあるべきか、そうした見識を持った人材を養成するための学類です。

冒頭の映画の話に戻りましょう。オンラインショップでは購買履歴や閲覧履歴をデータとして膨大な商品の中からその人に合ったものを推薦します。私はまんまとそれに乗せられたわけですが、映画を見てそれなりに満足しているので、推薦は成功したと言えるでしょう。このような技術を情報推薦や情報フィルタリングと呼びますが、知識情報・図書館学類ではそうした技術そのものを学びます。さらに、推薦のためのデータ収集に潜むプライバシーの問題や過度のフィルタリングによって自身が「望む」情報しか得られなくなるといった問題についても併せて学ぶことができます。また、動画配信のような新しいメディアが登場した時に、どんな人びとが使うのか、どのように使うのか、ひいては映像メディアの視聴という行為はどう変質するのかという問題もわれわれの学類のテーマでしょう。この映画は公開直後に DVD が発売されましたが、今では版元品切れですし、中古品にはプレミアムがついて 8,980 円（元は 3,800 円）で売られています。私がこの映画を見たのは、中古の DVD を買うよりもずっとお手軽に視聴できる動画配信というサービスでこのコンテンツが提供されていたからで、新しいサービスが映像メディアの視聴可能性を大きく拡げ、私たちがその恩恵を享受していることがよくわかります。このような、映像メディアに関するコンテンツの利活用に関する授業も知識情報・図書館学類にはあります。

知識情報・図書館学類のキャッチコピーに文理融合というキーワードを良く使います。これは受験生のみなさんには、文系の学生でも理系の学生でも入学できるというメッセージだと表面的に理解されがちです。確かに試験科目は文系・理系どちらでも受験できるように設定しているので、その理解自体は間違いはありません。でも、これまでに説明してきたような例を考えると、文理融合とは「どちらでも良い」という放漫なものではなく、「両方を学ぶ」という食欲なものにならざるを得ません。そのため、知識情報・図書館学類では文系出身であっても、数学・統計・プログラミングは必修で学ばなければなりませんし、理系出身であっても、哲学や法学の基礎を学ぶようにカリキュラムを作っています。知識情報・図書館学類への入学を志望される方には、分野を限定しない学びに対して、強い意欲を持っていただきたいと思っています。

図書館はどうしたの?と戸惑っている人が居られるかもしれません。知識情報・図書館学類において、図書館はもち

ろん重要な主題であり、日本の図書館の将来を支える専門職を輩出することは、学類の目標の一部です。卒業生の一部は司書資格を取得しますし、卒業後の進路としては常時 20 名以上が公務員・法人職員として就職していますが、その大半は図書館職員としての採用です。ただし、知識情報・図書館学類における司書教育は学類の専門教育課程の一部として、色々な専門科目の中で分散して行われています。司書として身につけるべき内容より、知識情報・図書館学類の卒業生として身につけるべき内容や専門性の方が遙かに大きくて深いのです。逆に言えば、それだけの広い視野と学識、確かな技術力を身につけないと、日本の図書館の将来はおろか、就職先の図書館の未来ですら変革していくことはできないでしょう。欲張りな学生求む。

情報メディア創成学類

学類長 平賀 譲

情報メディア創成学類を目指す皆さんへ

「情報メディア創成学類って何をするとところですか?」……。よく聞かれます。答えように難しい質問です。これについては大学説明会の場でも取り上げますが、これまではどちらかと言えば、どういう学類を目指しているかという話を述べていました。最近、少し違った切り口があるかなと思っています。

情報メディア創成学類（以下「創成学類」）が発足して 10 年を過ぎ、400 人以上が卒業生として巣立っていきました。最初の頃は、我々教員は（おそらく学生も）手探りの試行錯誤で進んでいましたが、ここに来て学類の性格や特徴、言うなればアイデンティティーがだいぶ見えてきました。そのアイデンティティーを形成する中核となるのは学生です。教員の側でこうありたい、あるべきだという理念や期待はいろいろあり、それがかなった（さらには上回った）面もあれば、どうにも不満といった面もあります。そういったものすべてをひっくるめて、学類のアイデンティティーを体現しているのが学生諸君にほかなりません。

創成学類生はモノ作りが大好きです。モノと言ってもロボットや展示ディスプレイの仕掛けといった形あるものだけでなく、スマホのアプリのようなソフトウェアもモノのうちです。いろいろな学生がいろいろなモノ作りに授業の実習において、それ以上に自主的に取り組んでいます。また創成学類生は好奇心旺盛で何事にも積極的です。クラス運営や学園祭委員などの仕事に率先して取り組んでいます。この 2 つにはつながりがあり、モノ作りをするというのは自分のためだけでなく、人の役に立つものを作りたい、自分の腕を見せびらかしたいといった動機もありそうです。勉強のほうはと言えば……うーん。まあ。「すごい秀才集団」でないのは確かです。先生方の中には「もう少し勉強してほしい」と思う人も多いかも。

モノ作りというのは結果がはっきりしている分、学内外でアピールしやすいものです。ロボコンなどもテレビ中継されますよね。創成学類生はプログラミング、アプリ開発など各種のコンテストに数多く参加し、入賞もしています。また学会で成果を発表する、中には著名な国際学会で発表し、優秀な研究として表彰を受ける者もあります。1 年あたり、学会発表は 30 件前後、授賞・表彰は 10 件程度あり、学内外の公募プロジェクト（研究費がもらえます）にも多くの学生が採択されています。大学には学長表彰の制度がありますが、創成学類生は本年度も含めて 4 年連続で表彰を受けました。これは結構すごいことです。

そういった学生は「高い才能を持つ天才集団」でしょうか？そうかもしれません。けどそうでもないかも。一見ごく普通の学生でも、意欲があって環境が整えば優れた成果を生み出せると考えるほうが夢があります。どのみち自分にはなれそうもないって？気にする必要はありません。真面目にコツコツ勉強するタイプの学生もたくさんいます。むしろそちら

のほうが多数派でしょう。そういった学生でも大学院に進んで優秀な研究をしたり、就職して一線で活躍したりしています。要するに単なるタイプの違い、開花する時期や場の違いです。その一方で、残念ながら学業についていけない、周りに溶け込めないという学生もいます。それらすべてをひっくるめてのアイデンティティーです。

最初に戻って、学類を知るには学生を知ることです。結局自分もその一員になるわけですから。大学説明会でも学生体験談を聞き、直接話を聞いてみましょう。最近だと SNS でそういった情報を得ることもできます（玉石混淆ですが）。それらを通じて、自分に向いているか、仲間に加わってみたいかを考えてください。何より、この「かすがらいふ」は情報メディア創成学類と知識情報・図書館学類の学生が企画して作ったものです。内容自体もさることながら、作った学生たちの意欲や個性や能力まで読み取っていただければ大いに参考になるはずです。

2. 授業紹介

大学の授業ってどんなもの？

春日エリアの学生ってどんなこと勉強するのかな？

そんなあなたの疑問に少しではありますがお答えします！

今回の紹介はあくまで執筆者の受講した講義の印象ですので、参考程度にお願いします。
※以下の文中では知識情報・図書館学類を「知識」、情報メディア創成学類を「メ創」と表記します。

全学類共通科目

共通科目

▼英語

情報学群の3学類（知識情報・図書館学類、情報メディア創成学類、情報科学類）合同で講義を受けます。4月に行われるプレイスメントテスト（TOEFL ITP® テスト/マーク式）でA1～C2の6つのクラスに分かれます。クラスごとに取り組む内容、課題内容は異なりますが、必ずしも上のクラスに行くほど課題やテストが難しい、下のクラスに行くほど易しいということはありません。正直、先生と使用する教材次第です（今年度は教材に『シャーロック・ホームズ』を使っているクラスもあります）。これは講義を受けてみないと何とも言えません。講義は週に3コマあり、それぞれ読み書きや聞き取り、会話の学習をします。高校で身に付けた英語の能力が衰えてさえいなければ、どうにかなります……多分。しかし、思っているより英語力は衰えているものです。入学試験合格後も少しでも勉強しておいたほうがいいでしょう。特にAC、推薦合格者は、合格してから入学までの期間が長いので、勉強しておかないと、苦しみことになるかもしれません。

▼体育

「え、大学って体育あるの？」……あります。1年次と2年次の必修科目です。運動が苦手な人でも初心者向けの種目を選べばとても楽しいです。そして筑波の体育ではニュースポーツ、フィットネス・トレーニング、シューティングスポーツなど普段聞きなれないような競技も体験できちゃいます！

第2 外国語

※知識は必修、メ創は必修ではないが受講可

第2 外国語は週2コマ講義があります。

以下の情報はあくまで今年度のものであり、先生が替わると内容が変わるかもしれません。

▼フランス語

フランス語は2つのクラスに分かれています。フランス語を単語からしっかり覚える文法の講義と、リスニングを中心としたフランス語でのコミュニケーション中心の講義を週2日で行います。フランス語は少し文法が難しいですが、話すのは楽しいです。試験は教科書に書かれていることを覚えれば難しくありません。

▼スペイン語

スペイン語は発音の際の規則が多いですがそれに慣れれば発音自体は英語よりも容易です。スペイン語は週に2コマあり、一方で文法を勉強し、もう一方では実際に問題を解いていきます。それぞれ先生が違い、スペイン語圏の先生もいらっしゃるので本場の発音を知ることができるでしょう。平成29年度は先生が英語で授業をしていたため、苦労した人が多かったようです。

▼ドイツ語

ドイツ語は、文法と会話を主に勉強します。文法は教科書を読みながら講義を聴き、練習問題を解くなど、中学の英語の授業と似たようなものとなっています。会話の方では表現を覚えて、クラスメイトや先生と実際に受け答えをすることを主に行います。試験では3人1組になって指示された内容の対話をしました。ドイツ語は発音がローマ字読みなので、英語よりも発音は容易です。しかし英語よりも規則が多いので、覚えることが多くなります。

▼中国語

中国語は文を見て意味はだいたい分かって、発音が難しいです。春学期の半分くらいは発音練習だけに費やしました。課題は予習でテキストの練習問題、復習で発音練習がありました。テストは教科書から出題されるので、形式を知ればそこまで難しくありません。発音は何度もCDを聴きましょう。秋学期にはアチーブメントテストがあります。

総合科目Ⅰ

総合科目Ⅰの対象は新入生で、2単位を必修としています。この科目は新入生が大学に慣れ、自分で大学での生活プランを立てられるようにサポートする科目です。通称大学問と呼ばれる「筑波大学特別講義—大学と学問—」など、自由に履修することのできる講義もありますが、ここでは知識やメ創の必修科目であるフレッシュマン・セミナーについて紹介します。

▼フレッシュマン・セミナー

通称フレセミ。1、2回クラスごとの授業もありましたが知識は4クラス合同、メ創は2クラス合同で行うことが多かったです。クラスメイトと交流して仲良くなったり、担任の先生や外部の方のお話を聞いたりして、大学生としての心構えを学びます。先輩の話を聞いたり、中央図書館の見学に行ったりもします。クラスの人たちとは長い付き合いになるので、ぜひここで友達をいっぱい作りましょう！

▼ロシア語

ロシア語は第2外国語の中で1番人数の少ない言語です。ほかの第2外国語はクラスが分かれているのに比べ、ロシア語は1クラスでも席が余るほどです。そのため先生との距離がとても近い講義で、よく話しかけられます。課題は毎週ではありませんし、プリントを読んだり埋めてきたりする簡単な課題です。テストは講義をちゃんと聞いていれば解ける問題なので、文法さえ覚えてしまえば割合楽です。なにより楽しいので、迷ったらぜひロシア語にしてみませんか？

総合科目Ⅱ

総合科目Ⅱは1・2年次を主な対象としています。自分の学類以外の講義を受けられるのが筑波大学の特色であり魅力の1つですが、特にこの総合科目Ⅱでは、様々な学類によって開講された100科目以上の中から好きな講義を選んで受講することが出来ます。総合科目は成績評価方法が様々ですので、講義を選ぶ際には参考にすると良いでしょう。迷ったときは先輩からおすめの総合科目情報を入手すると良いですよ！ただし、学生の広い視野を養うためにABCの3種の科目群の中でAとBからそれぞれ2単位以上、ABC合わせて5単位以上を取る必要があるので注意しましょう。来年度も同じ講義が同じ内容で開講されるかはまだ分かりませんが、ここでは今年度開設された授業の一部を紹介します。詳しくは来年度の総合科目シラバスをご参照ください。

科目群 A —物理、数理、生命等に関わる科目で概ね理系分野—

▼安全衛生と化学物質

この講義では公害病などの化学物質によって引き起こされる事柄や、日常生活で接する化学物質を安全に取り扱う方法について学ぶことができます。先生は講義ごとに異なり、資料もそのつと配布されます。成績は不定期に出される課題を提出し、最後の講義でポスター案を描くことで評価されます。

▼知的なシステムを作る

この講義は、人間の生活に役立つ知的なシステムを実現するための基礎と、その応用例をふまえて進められました。担当教員は講義テーマごとに変わり、それぞれ専門としている分野の先生による講義を受けることができます。期末試験はありますが、レポート提出はありません。

▼マルチメディアの舞台裏Ⅰ

この講義では、電子化社会をとりまく情報とそれを活用するための基盤について学びます。期末試験があり、講義中に出てきた専門用語の意味や特徴についての記述、そうした用語を用いて現代情報社会の直面している問題について論述を求められます。16,17年ともに試験において配布資料の持ち込みが可能でした。

科目群 B —精神、文化、社会、歴史等に関わる科目で概ね文系分野—

▼デザインと暮らし

この講義では、デザインの可能性や課題、これからについて、私たちの身近な生活を通して考えます。講義を通じてこれまで意識してこなかったものに触れることができます。評価の基準は期末試験のみで、レポートなどは一切ありません。試験の形式は4つのトピックから選択する論述形式となっています。その内容は講義中に扱ったものがほとんどであるため、講義をきちんと聴いていれば問題なく解答できます。

▼経営の科学Ⅰ

経営の科学Ⅰは、2人の講師が前半と後半で5回ずつ全10回の講義をします。前半の講義ではファイナンスを学び、後半の講義では、会計学の簿記の仕組み、貸借対照表等の表の読み方や分析を学びます。成績は、2人の講師が100点満点で評価を行い、その平均を取って成績が出ます。どちらの講師も最終回にテストを行います。

▼現代文化の芸術と文化

この講義は、絵画や演劇、アニメ、文学、音楽などについて2講義ずつ異なる先生から深く学ぶことができます。

幅広い内容を様々な例をもとに学べるので視野が広がるのが良いところです。課題は特になく、学期末には講義を受けた先生から2名選びその講義の要点と、自分なりの分析を述べる各1600字のレポートがあります。成績は、学期末レポートを主としてつけられます。

科目群 C ―文系と理系が融合した、より広範な主題からなる科目―

▼障害と共に生きる I

この講義では、内部障害や視覚障害、聴覚障害、認知症等、障害について広く深く知ることができます。分野の第一線で研究しておられる先生も多く、最先端の知識が学べます。分野の詳しい参考書や動画も紹介していただけるので、さらに深く勉強したいときの足掛かりもばっちりです。図書館の障害者サービスについて考えるきっかけになるかもしれません。成績の評価基準は出席（感想）と期末試験です。

▼競馬の世界

この講義では、JRAの職員の方や、元プロジョッキーの方を講師として招き、日本のみならず世界の競馬について学びます。また、実際に東京競馬場に行き観戦する機会もあります。授業後の課題としては各回の感想をまとめることです。この講義は、受講調整が行われるほどの人気があり、非常に貴重な体験ができる講義なので、是非受講してほしいと思います。

総合科目Ⅲ

さて、最後に総合科目Ⅲについて説明したいのですが……実はこの総合科目Ⅲ、昨年度より開講された科目であることに加え、標準履修年次が3・4年次であるため実体験が紹介できません、ごめんなさい。しかし、この科目は必修科目として1単位を必ず履修しなければならないため、3・4年次になった時に忘れずに履修するようにしましょう。ちなみにDEFGの4種の科目群に分かれており、総合科目ⅠとⅡの科目群ABCそれぞれの発展的な内容になっているようです。科目群Dは物理、数理、生命、環境等に係る総合科目（総合科目Ⅱ・科目群Aの発展科目）です。科目群Eは精神、文化、社会、歴史等に係る総合科目（総合科目Ⅱ・科目群Bの発展科目）です。科目群Fは上記2つの科目群にまたがる総合科目（総合科目Ⅱ・科目群Cの発展科目）です。科目群Gは汎用的能力に関わる総合科目（総合科目Ⅰの発展科目）です。

専門基礎科目

専門科目とは、各学類がそれぞれの学類生に向けて開講している授業のことを言います。

知識情報・図書館学類の科目

▼知識情報概論（春 AB）

普段私たちが何気なく扱っている知識や情報の本質について学ぶ授業です。「知識のフレーム」や「ドキュメント」など知識情報学、図書館情報学の専門用語が頻出し、その扱う内容ゆえに哲学チックな授業なので、好きな人にはたまらないはず。回を重ねるごとに、この授業の味がくせになってきます。（ジョジョについての熱弁が聞けるかも？）

時々○○概論になるのは内緒（-ω-）

▼図書館概論（春 AB）

図書館について学びます。知識に来る人には図書館に興味を持っている人が多いですが、この授業を受ければ図書館の役割や活動の豊富さに驚くでしょう。先生が世界各地の図書館を紹介してくれるので、きっと新鮮な経験が得られるはずです（・ω・）/

あまり興味のない人もこの講義を受ければ図書館が好きになりますよー！

▼情報基礎（春 AB）

パソコンやネットワークといった情報技術の仕組みについて学びます。自分はパソコンだめだから……という人も大丈夫。先生が基礎からやさしく丁寧に教えてくれます。終始穏やかな授業の雰囲気は、レポートやサークルに忙殺される学生たちの大きな癒しです。

情報メディア創成学類の科目

▼情報数学Ⅰ（春 AB）

情報数学Ⅰでは主に、集合・命題についての考え方や、その理論をコンピュータに理解させるための方法を学びます。講義は2時限連続で行われ、1時限目に講義、2時限目に演習（教科書の演習問題）を行います。演習では毎回、数人の生徒が指名され、黒板に実際に答えを書きます。この科目は高校で習った数学Aの「命題と証明」の発展と思われるものも扱っていますが、大抵は新しく覚えるものばかりです。

▼情報数学（春 AB）

情報技術を扱うために必要な数学を学びます。内容としては、論理と集合やベクトルなど数学A・Bの分野に近いです。毎年、文系理系問わずこの授業に苦戦するといわれています……（/_;）。（今年は進行がゆっくりで試験の範囲も狭く、かなり楽でした。）

先生の丁寧かつ、論理的な解説をしっかりと聞きましょう。そして、テストに向けて助け合いの輪をつくりましょう。

▼情報基礎実習（春 AB）

パソコンの基本的な使い方と、レポートの書き方について、しっかりと学ぶ授業です。毎週レポートが出されますが、中々にハードです……。提出日前日には多くの学生が実習室で唸っていたりします。しかし、確実に大学でも、社会に出ても役立つことなので、サボらずきっちり受けましょう！レポートでA評価が付くと嬉しいですよ！

▼線形代数Ⅰ（春 AB）

線形代数Ⅰでは、主にベクトルや行列についての考えを学びます。講義は2時限連続で、1時限目が講義、2時限目が演習となっています。ベクトルは数学Bで扱うベクトルについての復習が中心ですが、行列は多くの人々が新しく学ぶため、はじめは丁寧に教えていただけます。しかし、徐々に難易度が上がっていきます。線形代数は2年次でも履修する必要があるのでしっかり勉強しましょう。

▼情報メディア概論（春 AB）

情報メディア概論は、情報メディア創成学類開設の授業に関する基礎的な知識や、情報メディア創成学類ではどんな研究をしているのかを各研究分野の教授が紹介する、オムニバス形式の講義です。幅広く基礎知識や研究分野の紹介をしていただけるので、何を研究したいか・大学で何に取り組みたいのかが具体的に決まっていない人も興味のある分野を見つけられるのではないかと思います。講義を通して、いろいろなことに興味・関心を持ちましょう。試験は各回の講義内容から出題されるので講義ではきちんとメモを取っておくことをおすすめします。

▼コンテンツ応用論

社会の第一線で活躍していらっしゃる方々をお招きして講演をしていただくオムニバス形式の講義です。ゲームクリエイターや映画監督、プロデューサーやメディアアーティスト、コミュニケーションデザイナーやビジネスマンなど、様々な業界から錚々たる講師の方々がいらっしゃいます。質問をしたり自分を売り込んだり目標ができたりと、自分を見つめ直すいい機会でもあります。

▼教養と科学

メ創に所属している教員や外部の方が、自分の研究を題材にして紹介講演を行います。講演者との質疑やレポートなどによって、学類に関連する技術や研究の動向を学びます。この授業のなかで自分が研究したいことを見つけていくのもよいかもしれません。

▼解析Ⅰ

解析とは、つまるところ微分積分の応用です。微積分なんて高校生で終わりだと思っていたあなた、メ創へようこそ！やはり大学の数学、読めない文字や記号がやたらめったら登場します。しかし要は単なる微積分です。しっかり定義を確認しながら、使っていく練習をするとよいでしょう。長い定義も段々と覚えて使えるようになります。

▼コンピュータリテラシ コンピュータリテラシ実習 （春 AB）

このコンピュータリテラシとリテラシ実習は基本的には同じ授業として扱われ、皆さんもよく知るインターネットの使い方からHTMLによるホームページ制作、Linuxの操作方法などといった人によってはあまり馴染みのないことまで学びます。コンピュータリテラシでは、コンピュータがどう動くのかなどを理解するために2進数や論理回路などについて知識として学び、コンピュータリテラシ実習では実際に手を動かすことにより実践的な面を学びます。

▼コンテンツ表現演習 （春 AB）

この授業は画像処理について学ぶ「平面表現」と構成力を養う「空間表現」に分かれて行います。「平面表現」では、画像処理ソフトを使ってポスターを作ります。線の引き方や写真加工といった基礎的なことから教えてもらえるので、初心者でも全然心配はいりません。毎週の課題は楽なものではありませんが、しっかり毎週こなして先生の評価を真摯に受け止めていれば、素人目にも明らかほど技術が向上します。「空間表現」では、チームでの立体制作を通じて空間デザインを学びます。毎週先生に確認してもらいながら制作を行います。制作日数・作業量の都合から、授業時間外に制作を行うチームもあります。最後には各々の作品を春日エリアの施設内に展示し、プレゼンテーション形式で制作発表を行います。

3. 主専攻紹介

知識には、「知識情報システム」、「情報資源経営」、「知識科学」の三つの主専攻があります。三年次からはそのいずれかに属します。

※メ創は主専攻を分けていないため知識のみの紹介となります。

知識情報システム主専攻

知識情報システム主専攻はその名の通り、知識情報システムとはどのようなものなのかを扱う主専攻です。知識情報システムと言われると、電子図書館や、OPACといった、インターネットなどで普段利用するようなサービスを考えがちですが、実際には、アーカイブズの保存などのドキュメントの領域にまで広がる概念です。講義は主に、アーカイブズや実際のデジタルサービスがどのようなものなのか、どういった原理で成り立っているのか、どうやってそれらのシステムを設計、実装するのか、またそれらのシステムに使ったり、図書館などで利用したりするための知識資源の取り扱いを中心に構成されています。そのような講義を受けることで、学生は情報社会における膨大な情報を効率よく扱うための高度な技術を修得し、その知識や情報を有効に活用できるようになります。

デジタルドキュメント

デジタルドキュメントとは、ハイパーテキスト（他の文書へのリンクを含んだ文書）、ウェブを介した発信、多人数による共同編集などの概念を含んだ新しい情報メディアです。情報メディア創成学類との共通開設科目であるこの講義は、電子出版や電子書籍、学術研究分野でのデジタルドキュメントの実例を取り上げています。先生やティーチングフェローによる講義形式で進められ、4～5回（2017年度は4回でした）のレポートで評価されます。レポートの内容としては、デジタルドキュメントの実例を取り上げながら、デジタルドキュメントの長所短所を挙げていくものなどがあり、現在、インターネット上にたくさんある文書群がどのようなものを、さらに深く知ることができます。

知識情報システム実習

知識情報システム主専攻の必修科目で、通年で行われる実習形式の講義です。春学期はグループワークで、データベースを用いたシステムを実際に作ります。システムのアイデア出しから設計、開発、プレゼンテーションまでを包括的に行うので、グループでのシステムの作り方の流れのようなものを掴めます。開発はプログラミングだけではなく、インターフェイスやデータベースの設計実装にまで及びます。そのため、広範な知識が必要になり、自分の得意分野でグループに貢献することができます。秋学期は「Pythonを使った機械学習」、「デジタルアーカイブ」、「定理証明」の3つのテーマから1つ選び、課題に取り組みます。個人の興味にあった実習ができ、テーマによっては実習の目標も自分で決められます。

情報資源経営主専攻

この主専攻は平成27年度から名前が新しくなりました。以前は「情報経営・図書館主専攻」という名前でしたが、学んでいる内容をより分かりやすく伝えるためにこのような名前になりました。学ぶ内容は今までと変わりません。

情報資源経営主専攻では、世の中に溢れる「情報」について「社会」という切り口から考えていきます。何も整理されていない膨大な「情報」が目の前にあるだけでは、人々がそれらを満足に活用することはできません。それらの「情報」を蓄積・整理し、提供してくれる環境が身近にあれば、適切な情報を有効に利用することができます。そのような情報

環境の整備すると同時に情報環境に変わるような社会制度を整えていくことが社会の発展には求められています。その実現を目指す人材になるために必要なことを学んでいるのが、この主専攻です。情報提供環境の1つとして図書館を捉えているので、もちろん図書館についてもかなり専門的なことまでたくさん学べますが、決して図書館についてのみ勉強しているわけではありません。図書館をはじめとする情報サービス機関・組織・コミュニティにおいて、知識情報の蓄積・管理・提供サービスを企画、運営していくための知識や経営手法、知識情報の社会的制度を設計・構築・運営するための知識、多様な情報メディアの特性やその背後にある歴史・文化など本当に様々なことを学びます。「図書館をよりよくしていきたい!」という人から、『情報』という角度から教育や文化について考えたい!」という人、「古典籍や漢籍を後世に残していくことについて考えたい!」という人までこの主専攻の学生の興味は様々です。

以下はそんな経営主専攻開講のおすすめ講義です。

情報資源経営実習

3年次に経営主専攻全員が履修する科目です。プレゼンテーション形式での論文講読とグループワークを通して、図書館情報学という研究領域の全体像を理解していきます。図書館情報学の領域には多様なテーマがあります。自分が興味のあるテーマについてみんなに共有することで自分自身の理解も深まりますし、同時に他の人の興味のある分野についても聴くことができるので新しい発見もあります。1,2年次で勉強してきたことを踏まえて研究に繋げていくための入り口のような授業です。

アーカイブズの構築

日アーカイブズは保存資料、または記録保存館といった意味を持つアーカイブ (archive) の複数形です。この科目ではアーカイブのうち主に日本の古文書や公文書に着目し、これらの意義・歴史・機能や取り扱う上で必要な基礎知識について学びます。授業では資料自体や公文書館を始めとした資料の保存を行っている施設などの様々な写真を見たり、図情図書館の貴重書庫を見学できたりして楽しいです。また、この学類を志望する人は図書館好きの人も多いと思いますが、この科目では図書館におけるこれらの資料の歴史や展望についても触れています。評価は試験と毎回のコメントペーパーで行われます。提出したコメントペーパーは翌週に先生がフィードバックを行ってくださるので、疑問を書いておけばそこで解決してもらえたり、他の人のコメントを聞いて新たな知見を得たりと為になりました。

知識科学主専攻

「そもそも知識や情報って何なの?」「私たちはどうやって情報を探すんだろう?」「知識や情報はどうやって共有されるの?」そんな問いについて考えるのが知識科学主専攻です。知識科学主専攻は人間に着目します。その学問分野は多岐にわたり、「人間」の思考や行動を調査する哲学・社会学などの文系よりのものから、「人間」の産み落としたデータを様々な手法で分析・解析して知識を抽出する理系よりのものまで、人間と知識に関わることを幅広く学ぶことができます。おそらく、他のどの主専攻よりもできる幅が広く、説明するのが難しい主専攻でしょう。

知識科学実習

知識科学に所属する先生方によるオムニバス形式の実習です。新聞や論文を調査する文献調査、インタビューなどの質的調査、アンケートによる量的調査、文章を解析するテキスト解析……などなど、知識科学主専攻を構成する各領域の研究手法や技術を実際に経験することで学んでいきます。

メタ的に考えると、どの回もだいたいグループワークなので、グループでプロジェクトを進めるための情報共有や円滑なコミュニケーションなどが必要になり、身をもって「人間に関わる知識」を学ぶことができます。

ソーシャルメディア分析

近年、ソーシャルメディアの影響は大きく、学生の関心も高いですね。そんなソーシャルメディアの現状や使用による影響などを社会心理学的に理解するのがこの科目です。講義は実際に行われた調査の論文を読みながら進められるので、1・2年次に学んだ統計知識を実地的に使用した例を見ることができます。つまり、ソーシャルメディアについて学びながらその調査・分析手法についても深く理解することができるのです。

課題の論文を読んで毎回発言しなければ出席したことにならないので、他の科目と比較すると評価が厳しめと思われる科目ですが、普段何気なく使っているソーシャルメディアの影響についてメタ的に、クリティカルに考えられるようになります。「いつものあの子のツイートにはこんな深い意義が……!」と思うようになったり、ならなかったり……。

4.ゼミ紹介

はじめに

知識及び創成の学生は、4 年次に卒業研究に取り組まないと卒業できません。3 年次までの間には数十人から数百人を対象とした講義を受けて必要な知識を身に着けます。そして知識は 3 年次の 11 月頃に、創成は 4 年次の 4 月に教員の研究室に配属され、卒業研究を行うために少人数による議論や個別指導が行われます。これがいわゆる「ゼミ」です。

卒業研究とゼミ

卒業研究とゼミについて、私が所属している佐藤研究室を例に説明します。卒業研究のテーマは研究室によりますが、指導教員が指導可能なものであればなんでも選べます。知識であれば複数の主専攻から学生が集まる研究室も少なくありません。ここ数年の佐藤研究室は知識情報システム主専攻の学生と知識科学主専攻の学生が在籍しています。そのため、扱うテーマも自ずと幅広いものになります。最近では、立ち読み時に着目する要素の研究、ユーザーのレベルに合わせたレシピ作成システム、ディープラーニングの学習経過可視化など様々なテーマを扱っています。これらのテーマについて学生は卒業に向けて研究を進めていくわけです。

では、具体的にどのような流れで 1 年を過ごすか説明します。まず、最初に興味のあるテーマの先行研究や関連研究を読み、対象分野の知識を身につけます。佐藤研究室では、指定された学会の論文を週数本読んできて要点をまとめて発表するという形式でした。その後、研究テーマを決定してからは各々の進捗報告が主になります。指導教員からアドバイスを受けたり、ゼミ生同士で議論したりしています。そしてこれらの集大成として、卒業論文を執筆し最終発表を行うことになります。

また他の研究室では、輪読（同じ本について担当する部分を決め、その部分の内容についてまとめて発表）をしたり、ゼミ生の興味の方角について全員で話し合い参考文献を提供しあったりとゼミの内容も少し異なります。個人ゼミが中心か集団ゼミが中心かでも違いはありますが、頻度は週に 1 回程度のところが多いようです。また、個人ゼミがメインの研究室では随時教員と調整をしてゼミを行う、というところもあるようです。

研究室ってどんなところ？

研究室によって異なるため、一概には言えません。佐藤研究室はプリンターや研究に関する書籍を所有しており、各自に机が与えられています。一方、学生が作業する場所がない研究室もありますので、そちらに所属する学生は図書館や自宅で作業を行います。

卒業研究やゼミは大変なものに思われるかもしれませんが、指導教員やゼミ生と議論をしたり、研究テーマについて深い知識を身に着けたりするのはとても面白いものです。この記事を読んでいる皆さんが、研究室に訪れる時を心待ちにしております。

5.合格体験記

「春日民になりたい！」

そう思う方もいらっしゃるでしょう。頑張ってください！かすがらいふ編集委員会一同応援しております！！でも、ふとこんな疑問にぶち当たるのではないのでしょうか。

「受験ってどうすればいいの？」

それはみなさんが一回は持つ疑問、焦りだと思います。春日民である私達も経験してきました。「AC の対策って…」「推薦の面接どうしよう…」「二次対策はいつから始めればいいの…」「小論文がうまくかけない…」 わからないことだらけではないでしょうか。でもこれらを乗り越えることができなければ、楽しい楽しい春日民にはなれないのです……。では、先輩の春日民は受験をどう乗り越えたのでしょうか。ここからは学類ごとに AC、推薦、前期、後期を経験したばかりの 1 年次の人にその経験談を書いていただきました（だいぶ個性豊かなところがありますが）。先輩たちがどのように受験を乗り越えてきたのか、どう自分なりに受験を乗り越えるのか、この合格体験記を読んであなたなりに考えてみてください。
※春日民 … 春日エリアに通う学生の通称。

知識情報・図書館学類

AC 入試	p.xx
推薦入試	p.xx
前期入試（文系）	p.xx
後期入試（理系）	p.xx
後期入試	p.xx

情報メディア創成学類

AC 入試	p.xx
推薦入試	p.xx
前期入試	p.xx
後期入試	p.xx

知識情報・図書館学類 AC 入試

AC 入試とは

AC 入試は、筑波大学の多様な入試形態の1つで、自己推薦することによって合否が決定します。試験内容は、まず800 字程度の志望理由書と自分の能力についての自己推薦書を送る一次選考があり、その選考に合格した後、1 対3 で行われる30 分程度の面接を受けます。自分で課題を見つけ解決する能力、すなわち「問題解決能力」、そして、論理的で説得力のある「説明能力」が重視されます。

受験のきっかけ

私は中学生の頃から司書に憧れ、筑波大学の知識情報・図書館学類を目指していました。高校生になり、システムエンジニアの仕事に興味を持ったことがきっかけで、国立大学で唯一、図書館学とプログラミングの双方を学ぶことができる、この学類の素晴らしさに更に気付きました。

私がAC 入試への出願を決めたのは高校3 年生の夏休み前、出願締め切りの1 ヶ月前でした。筑波大学を目指してきた私の6 年間を振り返った時、AC 入試の自己推薦書で問われる問題解決能力が、自分の今までの行動や思考の中に知らず知らずのうちにあったことを発見したからです。そして、この想いを伝える手段はやはりAC 入試しかないと思い、出願を決意しました。

試験対策、私の経験とアドバイス

厳しい言い方かもしれませんが、甘い気持ちでAC 入試を受けるべきではありません。AC 入試で一番大変な作業は、一次選考時に提出する自己推薦書を作る作業です。自己推薦書は主に夏休みあたりに書くことになる人が多いと思います。受験の天王山とも呼ばれる時期に自己推薦書を執筆しながら、受験勉強をすることはなかなか大変です。まず、そのことを肝に銘じておいてください。

それに、AC 入試は輝かしい経歴を持っているから受かる、というものではありません。私自身、受賞経験もないし、大会で結果を残すということはしていません。前にも書きましたが、問題を解決するまでの過程、問題解決能力が重視されます。

一次選考の自己推薦書では、これまで自分が問題に出会ったときに、どのように問題を分析し、行動し、解決してきたのか。それを、論理的に説明し書くという作業を私は意識しました。ただ自分のやってきたことをつらつらと書くのではなく、的を絞って書く、図や表、または写真を使って見やすく工夫すると、相手が読みやすくなります。

一次選考は志望理由書と自己推薦書だけです。それを試験官が読み、本人に更に詳しく話を聞いてみたいと思わせなければなりません。私はどのようにすれば、自己推薦書が読み手に伝わりやすくなるのかを念頭に置き、執筆をしました。そのため、私は高校で多くの先生方に自己推薦書を読んでもらい、意見をいただいて校正を重ねました。

難関である一次選考に合格したら、次の二次選考まではあまり日にちがありません。時間を上手く使って二次試験対策をしましょう。私は二次試験までひたすら提出した自己推薦書を読み、自分の考えを深めるために文献、論文などを読みました。面接練習も高校で多くの先生にいただき本番に備えましたが、二次試験では

練習した内容の質問は何1 つ出ませんでした。しかし、面接練習は新しいものの捉え方などを発見でき、客観的に自分を見ることもできるので、是非行うべきだと思います。本番の面接では、その分野の専門家の人と話しに行く、そのような心持ちで行くとあまり緊張せず面接ができると思います。面接官はその分野の専門家です。私たちよりその分野に詳しいのは当然のことなので気張らず行きましょう。

一言

チャンスは誰にでも平等にありますが、準備をしていないとチャンスを逃してしまいます。自分と向き合い、自分を信じ、自分の力を全力で出し切って試験に挑んでください!!!

推薦入試

受験のきっかけ

私は幼い頃から読書が好きで、よく近所の図書館や学校の図書室を利用していました。私にとって図書館はただ本を借りるための場所でしたが、時が経つごとに独特の空気感やにおいなどの図書館自体もまた好きになりました。さらに学校司書の先生にお勧めの本を尋ねているうちに、だんだんと司書という職業に憧れを抱くようになりました。そこで司書資格が取得できる国公立大学を調べていた際に筑波大学を知り、さらに調べたところ図書館情報大学という大学を前身とした学類があると分かりました。「図書館情報学」という分野について深く学ぶことができ、かつ推薦入試制度が存在することを知り、志望に至りました。

高校時代の過ごし方

私は中高一貫校に進学したため高校受験がなく、宿題とテスト前以外はあまり勉強をしてきませんでした。高校に入ってからはその程度ではついていけなかったので、学校での授業を大切にし、分からないところは放課後に友達や先生に聞きました。授業を大切にすると定期テストに出題されそうなポイントが分かるので効率的なテスト勉強ができました。そこで余った時間は模試の勉強に回していました。

私は高2 の3 月頃まで生徒会長で、加えて高3 の7 月まで文芸部に所属しており、生徒会と部活と勉強の両立が難しかったです。とくに他の同級生が部活を引退して勉強漬けの毎日を送り、徐々に成績を上げていくなかで、引退することなく部活に参加していた頃は不安で仕方がありませんでした。しかしその不安を払拭するべく、ちょっとした時間を無駄にすることなく勉強に充てることができた点については良かったと思います。

推薦入試のことは高2 の夏頃に知り、受験を視野に入れていたものの、決心したのは高3 の夏に大学説明会に来てからでした。決めるのは遅かったですが、やっておいて損はないだろうと思われることをとことんやっていたおかげで面接時のアピールの幅が広がりました。経験を活かせるのが推薦入試の醍醐味なので、様々なことに挑戦して良かったと感じています。

提出書類

志望理由書は推薦入試で必須の提出書類です。私は大学説明会の前に一度書き、大学説明会後に一から書き直して担任の先生と国語の先生と親に見てもらいました。自分でも何度も確認しましたが清書している途中で間違いに気づいたので、コピーした紙に清書の練習をしてから清書本番に臨むことをお勧めします。

私は推薦用件（1）の「学習成績概評A 段階」で出願したため、推薦用件が（2）または（3）の場合に必

要になる提出資料や書類については分かりませんが、何か気になることがあれば推薦合格者の先輩に聞いてみたり、大学に問い合わせたりすると良いと思います。

小論文と面接

小論文は、日本語と英語の2種類があり、どちらも課題文付きの問題です。日本語の小論文は国語の現代文のような読解問題と、意見を述べさせる小論文なので、読解が苦手というわけではないのなら小論文を中心に対策した方が良いと思います。英語の小論文は、小論文と言うより普通の長文読解問題なので、センターレベルの単語やイディオムが理解し、内容把握や和訳ができれば大丈夫だと思います。ただ課題文のテーマが例年とは大きく異なる場合や、ある程度の基礎知識を必要とする場合も考えられるので、時事問題や過去問の関連テーマについて軽く触れておいても良いかもしれません。そして日本語も英語も過去問をしっかり解き、先生に添削してもらうことをお勧めします。また、推薦直前の時期は先生の取り合いになる可能性が高いので、早めに少しずつ添削をお願いすると良いと思います。

面接は15分程度で試験官と3対1で行われます。私は学校でもらった面接の過去問（過去の受験者が書いた入試データ）を参考にしました。学校での時間は希望者補習や小論文対策に充てたかったので、親が高校教師だったこともあり、面接練習は家で親にしてもらいました。話す内容はもちろんですが、姿勢や所作、表情、声の大きさやトーンまできっちり教えてもらった方が良いと思います。本番では聞いてほしい内容は全く聞かれませんでした。多くのケースを想定して答えを考えておくほど、それは自信に繋がります。試験までとことん対策をして、焦らず落ち着いて自分の意見を笑顔で伝えられれば大丈夫です。

アドバイス

オープンキャンパスや、11月に行われる雙峰祭という筑波大学の学園祭の相談コーナーに行くと、推薦入試で合格した先輩がいます。そのような機会を活用して多くの先輩に推薦入試について聞くと良いと思います。もし可能なら先輩の連絡先を聞いておくとも良いかもしれません。

推薦入試はメリットもあればデメリットもあります。場合によっては推薦入試の対策に充てた時間が水の泡となるかもしれません。そのリスクを考慮した上で、一般入試で受かってやるというくらいの気持ちで勉強してください。勉強したことは絶対に無駄になりません。死ぬ気で頑張ってください。

一言

私は私大も推薦を受けたので、私大の試験が終わった約一週間後にまた試験があり、とても忙しかったです。それでもなんとか余裕を持てたのは前もって少しずつ準備をしてきたからだと思っています。やるだけのことはやったから絶対に後悔しない、と胸を張って言えるくらい努力して受験を乗り越えてください。

大学は、学生の「やってみたい!」、「学びたい!」という夢を実現させる場所です。春にまた皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

前期入試（文系）

僕が受験勉強を始めたのは、3年の11月にセンタープレの模試が返却されてからでした。その時返却された模試は、とても悲惨なものでした。E判定はもちろん、偏差値はギリギリ40に到達したくらいで、到底筑波大学に受かるレベルではありませんでした。また、夏の模試では、今日在籍している学類すなわち筑波大学情報学群知識情報・図書館学類の志望者順位で62人中、最下位の62位を見事に記録しました。しかし、入試本番では、センター試験・二次試験ともに8割をとり、無事に合格することができました。では、この3ヶ月の間に何があったのかを説明したいと思います。

センタープレの模試が返却されて、ようやく勉強をし始めなければならないと気づきました。センター試験まで2ヶ月、二次試験まで3ヶ月しかなかったため、いかに効率よく勉強するかを第一に考えました。そこで思いついたのが参考書や問題集には一切触れずに、センター試験や二次試験の過去問だけをひたすら解くという勉強法でした。リスクはありますが、学力が目標と著しくかけ離れており、尚且つ入試までに時間がない時には最大の効力を発揮する勉強法であると思います。まずセンター試験の対策は、苦手克服に全力を注ぎました。現代社会や生物基礎などの比較的簡単な科目は、毎年同じような問題が出題されるので、学校の授業毎に配布されていて今まで解かず放置してた模試の過去問をひたすら解くだけで点数が大幅に跳ね上がりました。中学生のころからとても苦手で嫌悪感を抱いていた英語に関しても、1日1題、気分がいい日には2,3題のセンター試験の過去問の長文を解くことによって、センタープレの模試では半分も取れてなかったのに本番では倍以上の点数を叩き出すことができました。英単語の暗記に関しても、元日からセンター試験前までに単語帳(システム英単語)の1,2章、センター試験後から私大試験前までに3-章、私大試験後から国立二次試験までに4章と単語帳1冊分を短期間に集中して覚えることによって、試験時に全単語を覚えている状態にしました。

次に、二次試験の対策ではひたすら国立大学の過去問を解きました。英語は、センター試験後から40日間、1日1年分の国立大学の過去問を解きました。また、数学は文系であったため一番力を入れました。センター試験前までに前年度の全国立大学の数ⅡBの問題を解き、センター試験後は筑波大学の過去問61年分(赤本で11年分、緑本で50年分)の数ⅡBの問題をすべて解きました。日本史は趣味で幼いころから覚えていたこともあり、400字論述を何題も課す筑波大学と一橋大学の過去問をどちらも20年程度解くことによって文章構成力を鍛えました。国立大学の入試問題は少ない問題を多くの時間をかけて作られるため良問が多く、問題集を解くよりも断然実力がつくと思います。

受験生の皆さんも、自分に適した勉強法を見出して活用しましょう。そして、この春日の地でお会いできるのを楽しみにしております！

前期入試（理系）

私が知識情報・図書館学類を受験することを決めたのは、正直に言うとセンター試験が終わった後でした。しかし、センターリサーチの結果はこの学類も D 判定だったので、浪人することを覚悟して出願を決意しました。

私はセンター試験で大失敗をしてしまったので、二次試験までは不安との戦いでした。二次試験の試験科目は英語、数学、化学の 3 科目しかなかったので、センター後はひたすらこれらの科目を 1 日 10 時間以上勉強し続けました。ここで各科目について、私が 1 ヶ月間していた勉強法を紹介しようと思います。

まず、英語です。筑波大学の英語の問題は例年、長文問題と自由英作文が出題されます。長文問題は主に基本的な内容が聞かれるので、長文問題の参考書を中心に勉強し、長文に慣れておくの良いと思います。自由英作文は、まずは過去問を中心に解いて高校や塾の先生に添削をお願いすると良いです。過去問が終わってしまったら他大学の類似問題を解いて慣れていくのが良いと思います。私の場合は、1 週間前に解いた他大学の問題と全く同じ問題が出題され、本当に驚きました。

次に数学です。この学類の数学の試験は理系にとっては大きな得点源です。120 分で 2 題解けば良いので、時間的にとても余裕があります。問題自体も基本的な問題が多く、基礎をしっかり理解した上で応用に取り組んで、過去問演習をするのが効果的です。数 III が苦手、または未履修の子でも数 IIB で受験することができるので諦めずに頑張ってください。

そして化学です。化学の問題は理論化学から無機化学、有機化学まで幅広く出題され、試験時間が 60 分と短いのでしっかりと対策する必要があります。暗記問題や計算問題はもちろん、実験や現象の説明などの記述問題が出るので丁寧に勉強しておくことをお勧めします。どうしても試験時間がギリギリになってしまうので時間を計りながら演習するのが良いと思います。他の理科科目に関しては詳しくはわかりませんが、どれも時間勝負になってくと思うので、自分の得意な科目を選択するのが一番だと思います。

一通り二次試験の対策の話をしましたが、今はまだ夏休みですよ！そろそろ模試の結果などを見て焦っている人や、逆に余裕だという人がいるかもしれません。。しかし、余裕だと感じている人はここで油断してしまうと後で私のように大変なことになってしまうので、今のうちに苦手科目をなくしておきましょう。そして、得意科目はさらに得点源にできるように頑張りましょう。今の時期はセンター試験のみの科目はセンター試験の勉強を、二次試験でも必要な科目は二次試験の勉強を中心にするのが良いです。今からでも勉強する時間はたくさんあるので最後まで諦めずに勉強してください。たとえ第一志望の大学に合格できなかったとしても、全力で勉強していればあまり後悔が残ることはないと思います。

来年この場所で皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

後期入試

高校時代の勉強について

私はいわゆる都内の自称進学校に通っており、1 年生の頃から課題や小テストにまみれた日々を送っていました。1 年生の頃から入試を意識した話は先生方からたくさん聞いており、模試も受けてはいましたが、1 年生の頃は入試がどういうものかということも知らず、ただ漠然と法学系の学部に進みたい、近くの国立大学に法政経学部があるからちょうどいいなとしか考えていませんでした。1 年生の頃から勉強は割と頑張っていたので、模試の成績はそれなりに伸び、尊敬している先生方のすすめもあって、2 年生の頃にいわゆる最難関大学を視野に入れ始めるようになりました。3 年生になるとベネッセのマーク模試、駿台全国判定模試、駿台全国模試、大学別の模試（駿台と河合）などたくさんの模試を毎月のように受けていました。多少の浮き沈みはあったものの、3 年夏ごろまで基本的に成績はそれなりに安定しており（もちろん勉強は毎日ちゃんとしていました。平日 3, 4 時間、休日 7 ～ 10 時間）、夏休みは今まであまり勉強していなかった人が頑張り出すので偏差値や志望校判定が多少下がっても落ち込まないようにと言われていましたが、緩やかに成績が上がりました。しかしその後の模試では A 判定を取ったり、D 判定を取ったりして波のある結果をとっていました。ここで重要なのは、とにかく一回一回の模試の結果に一喜一憂しないことです。ちなみに併願校は早稲田大学（センター利用入試:商、社、文、文構）、上智大学（TEAP 利用入試:国関、社）、明治大学（センター利用入試:経営）でした。これらの大学にはすべて合格しました。

試験対策

知識情報・図書館学類の後期入試はなんと言ってもセンターの点数が重要です（配点はセンター 900 点 + 小論文 200 点）。後期入試は前期の結果による人数の変動が大きいと思われますが、毎年の合格最低点を見る限り（平成 29 年度は 851 点、平成 28 年度は 836 点、平成 27 年度は 817 点）、センターで最低でも 8 割くらいはほしいかなといった感じです。

ちなみに、私のセンター本番の成績は 792/900（88％）でした（私はド文系人間なので数Ⅱ B が 53 点だった以外はほぼほぼ 9 割を超えていました）が、マーク模試の成績は 9 月 771 点→11 月 722 点と下降し、その後も 720 点～750 点をさまよったため、とても不安だったことを覚えています。正直言うと、センター試験前は本当にもうどうにでもなれ！と思い、センター試験がだめだったら出家しようかな（古文でよく出てきますよね）と考えるほどでした。しかし、本番は自己最高点を叩き出しました。センター試験対策についてですが、センター試験はなんと言っても時間との闘いです。短い時間の中でいかに点数を多く取ることができるかの勝負です。では、どうしたら短い時間で問題を解くことができるようになるのか。答えはたくさんセンター試験の過去問や予想問題集などを解き、問題形式に慣れ、問題を解く順番を決め（たとえば私は英語のアクセントが苦手だったので、そこでつまって時間切れにならないよう、最後に解いていました。）、問題を解く時間を縮めていけるようにする（国数英は慣れないと結構時間かかる…）ことです。私は後期試験の小論文対策は、ほとんどしていませんでした。前期試験の結果を受け、落ち込んでいたのもありますし、センターの結果からして落ちることはないと考えていたからです。ただ、文章を書くことが苦手な人は、普段から練習しておいたほうが良いかもしれません。

一言

来年また会いましょう！

情報メディア創成学類

AC 入試

受験のきっかけ

私が情報メディア創成学類への受験を決めたのは高校 2 年生の秋でした。同じ高校の先輩がこの学類に AC 入試で合格したことを聞き、私はこの AC 入試のことを知りました。

私は中学 2 年生の頃にプログラミングの独学を始め、 それを続けてきました。それから AC 入試への受験を決めるまでにいくつかのアプリコンテストで受賞したり、 東京に出向いて様々な勉強会や技術系イベントに参加したりしました。そのような経験を持っていたので、AC 入試のことを知っていた私は、これ以上に自分が評価され得る入試はないと考え、この入試への挑戦を決意しました。

中高生時代の過ごし方

私は中学 2 年生の頃にプログラミングの独学を始めました。十進 BASIC から始め、HSP(Hot Soup Processor)、Excel VBA、JavaScript などを学んでいきました。

そして中学 3 年生の頃に、 同年度に作った遠隔操作ソフトを「中高生ソフトウェア・アイデア・コンテスト」 に応募したところ入賞しました。そして、横浜市立の理数科高校に入学しました。

私は中学 2 年生の頃にプログラミングの独学を始めました。十進 BASIC から始め、HSP(Hot Soup Processor)、Excel VBA、JavaScript などを学んでいきました。

そして中学 3 年生の頃に、 同年度に作った遠隔操作ソフトを「中高生ソフトウェア・アイデア・コンテスト」 に応募したところ入賞しました。そして、横浜市立の理数科高校に入学しました。

その後も C#、WPF を新たに学ぶなどして、プログラミング・アプリケーション開発の独学を続けました。この中で、競技プログラミングを主として取り組んでいる情報工学部の人々と交流があった関係から、その部の 2 名とチームを組み、2015 年 1 月の横浜ユースフォーラム（横浜市による若者のためのアプリコンテスト）に臨む機会に恵まれました。そこで私達は選挙投票行動支援アプリを開発し、横浜市政策局長賞（事実上の最優秀賞）を受賞することができたのです。それをきっかけにそのチームや個人で様々な勉強会やイベントに行くようになりました。「code for YOKOHAMA」という団体に加入し、プレゼンテーションをしたこともありました。また、慶應義塾大学 SFC で開催された一泊二日の IT エンジニア倍増計画ハッカソンに参加したこともありました

高校 2 年生では情報工学部に入部しました。Android アプリを作ったり、Rapsberry Pi をサーバーにして Web アプリを作ったりしました。クラスのみんながスマートフォンのボタンを押した回数だけ席順をリアルタイムにシャッフルする Web アプリを作ったり、生徒の Twitter の投稿をリアルタイムで眺められるサービスを作ったり、校内に散りばめられた QR コードを撮影することでその場所を自分の陣地にしてその広さを競うリアルタイム陣取りゲームを開発したり、高校の Web のフィルタリングを回避する Web プロキシを作ったり、350 人を超えるユーザーが一斉に投票をするサービスを作ったりしました。 また、レゴ マインドストームと Web カメラと Raspberry Pi 3 を使って遠隔操作ロボットを作ったこともありました。

高校生活 3 年間で、 もくもく会やハンズオンなど合わせておよそ 20 のイベントに参加し、自治体における問題点や、Web、IoT、マーケティングなどの様々な知見を得ました。

とりあえず何か作ってみるというのはとても大事なことです。何かを作ると知見を得ます。ものを作るという作業は試行錯誤の繰り返しです。その成功と失敗の経験によってできることの幅が広がります。できることが増えると、今度はちょっと背伸びしてこんなこともできないかという風にアイデアが広がります。そのアイデアを実現しようと自分で調べる過程でまた新たな技術を身につけることができます。何かを作ってみることでこのように技術とアイデアを相互に成長させていくことができるのです。

AC 入試について・試験対策

AC 入試は書類選考の第 1 次選考と面接の第 2 次選考を経て可否を判定する入試です。第 1 次選考では主に志望理由書、自己推薦書が重点的に評価されます。志望理由書には入学を志望する理由と熱意を 800 字以内で述べます。自己推薦書には自分がこれまで取り組んで来たことをまとめます。自己推薦書では、いかに自分が大学の求める人物像に合致しているかをアピールします。詳しい内容については筑波大学 アドミッションセンターが公開している募集要項を参照してください。自己推薦書の分量に規定はありませんが、合格者の中には A4 用紙 75 枚分という例もあれば 20 枚分弱という例もあるらしく、分量についてはあまり気にすることはないかと思います。ちなみに私の場合は、本文 12 ページ、資料 19 ページ、合計 31 ページの分量でした。大まかな内容としては、本文には、それまでの活動を通して学んだ・発見した・感じた・考えたこと、それまでしてきた活動の内容、今後やりたいこと・将来なりたい姿を記述しました。添付資料は本文から参照される形で、活動の内容をより具体的に伝えるための説明を記述しました。合格者の自己推薦書の要約と合格後の活動のレポートがアドミッションセンターより公開されているので、それも参考にするとよいと思います。

自分が何をやってきて、何をしたいかきちんと説明できるようにしておきましょう。誰かに面接練習に付き合ってもらったり、何を尋ねられるか自分で想像して答えられるように訓練しておきましょう。本番では自分の考えを正直に述べることが大事です。

一言

アドミッションセンターはやさしい世界です。やりたいことと熱意さえあればきっと歓迎されるはずです。アドミッションセンターはそういう人を求めています。

何か質問などあれば Twitter(@iciclize) へどうぞ。

情報メディア創成学類

推薦入試

受験のきっかけ

私は、高校入学あたりにメディアアートやインタラクティブアートに興味をもち、高校 1 年の冬に研究職に憧れを抱き始めました。そこで、メディアアートを扱うような大学、学部生から研究に関われる大学を探し、筑波大学情報メディア創成学類を知りました。はじめは推薦入試に出願する評定が足りず、一般入試での受験のみ考えていました。しかし、3 年 1 学期の評定で体育に救われ、ものは試して推薦入試を受けてみることにしました。（評定は 4.3 なくても出願できるらしい……）

推薦入試について

正直、推薦入試に全てをかけるような受験はオススメしません（そんな人はいないと思いますが）。推薦入試は運試し程度の気持ちで受けましょう。合格したらラッキーです。推薦入試は 11 月に行われます。センター入試まであまり時間がないので、推薦入試に多大な時間をかけ、それで落ちてしまったら元も子もありません。推薦入試で受かった数人に聞いてみたところ、やはり 2 週間前くらいから対策を始める人が多いようです。具体的には過去問を解いたり、面接・口頭試問の練習などです。メディア創成の推薦入試は例年『数学的理解力を要する英語の問題』と『小論文』、それと『面接』です。

英語（数学）の問題は、受験対策の英語、数学をしっかりとやっていれば特に苦労はしないと思います。対策をする必要があるとしたら、英単語でしょうか。入試直前まで数学用英単語集『基礎からわかる数、数式と図形の英語』を読み返してる人が多かった印象です。論文の対策は全くしていなかったのになんとも言えませんが、国語力はとても大事です。私は読書が趣味で、高校 3 年になってからは情報系の本も読んでいたのでそれに救われたなと思いました。

最後に面接についてですが、担任に依頼して作成してもらう書類を元に質問されるようです。よくわからないことに私は志望理由等は聞かれず、代わりにメディアアートについての質問、それと大学入学後にやりたいことなどについて多く聞かれました。また、口頭試問は一般試験で大問 1 によくある問題が出題されたなと感じました。これはホワイトボードに実際に解き、解法を説明するものなので、いくつかの入試問題を友人や先生の前で何度か解き、練習することをオススメします。

正直、推薦入試に全てをかけるような受験はオススメしません（そんな人はいないと思いますが）。推薦入試は運試し程度の気持ちで受けましょう。合格したらラッキーです。推薦入試は 11 月に行われます。センター入試まであまり時間がないので、推薦入試に多大な時間をかけ、それで落ちてしまったら元も子もありません。推薦入試で受かった数人に聞いてみたところ、やはり 2 週間前くらいから対策を始める人が多いようです。具体的には過去問を解いたり、面接・口頭試問の練習などです。メディア創成の推薦入試は例年『数学的理解力を要する英語の問題』と『小論文』、それと『面接』です。

英語（数学）の問題は、受験対策の英語、数学をしっかりとやっていれば特に苦労はしないと思います。対策をする必要があるとしたら、英単語でしょうか。入試直前まで数学用英単語集『基礎からわかる数、数式と図形の英語』を読み返してる人が多かった印象です。論文の対策は全くしていなかったのになんとも言えませんが、国語力はとても大事です。私は読書が趣味で、高校 3 年になってからは情報系の本も読んでいたのでそれに救われたなと思いました。

最後に面接についてですが、担任に依頼して作成してもらう書類を元に質問されるようです。よくわからないことに私は志望理由等は聞かれず、代わりにメディアアートについての質問、それと大学入学後にやりたいことなどについて多く聞かれました。また、口頭試問は一般試験で大問 1 によくある問題が出題されたなと感じました。これはホワイトボードに実際に解き、解法を説明するものなので、いくつかの入試問題を友人や先生の前で何度か解き、練習することをオススメします。

もっとも重要なこと

私は受験でもっとも重要なことはモチベーションだと思います。明確なモチベーションがあれば面接等で苦労することは特にありませんし、長い受験生活も乗り切れることでしょう。なのでまずは、『その大学で何がしたいのか』『自分が本当にやりたいことはなんなのか』を書き出してみることをオススメします。そして書き出したことをさらに深めて考えることで、自分の考えがはっきりしてくると思います。

最後に

受験において入試に関する情報不足や入学後の生活など、多くの心配事があると思います。 そんな時はいつでも Twitter(@atuyoti_mast17) で質問してください。自分も昨年、創成の先輩に DM で頻繁に質問していました。自分一人では答えられないようなことも知人にあたり、できる限り答えます。来年、春日エリアでみなさんとお会いするのを楽しみにしています。

情報メディア創成学類 前期入試

メ創はセンター試験と二次試験の比率が 900:800 で、センター試験も二次試験もまったく気は抜けません。二次試験は理科がなく、英語と数学だけなのはメリットです。

まず、過去問は有用です。過去問だけやればいいわけではありませんが、何回かやっておいて損はないです。問題のレベルを把握できますし、何より過去問が解けるということは自信になります。僕は自信になりました。また、過去問を解く際は本番を想定して時間を計るようにしましょう。

数学は定義や公式などの基礎固め、ケアレスミス防止のための見直しの習慣化が大事です。これらは他の受験者に差をつけられないために必須です。はじめは過去問が解けなくてもいいので、問題のレベルや分野、傾向を抑えておきましょう。また、センター試験もですが、取れる点を確実に取ることは重要です。簡単な大問と難しい大問がありますが、すべて同じ 80 点満点です。試験のはじめにある程度見極めましょう。ケアレスミスについては、微積はもちろん、四則演算も注意です。正直当たり前のことですが、余裕ぶっこいている人ほど本番でやらかします。

英語は、近年は長文 2 問、文法と自由英作文で 1 問といった形式です。長文については、まず単語と問いに目を通し、何が問われているかを見ましょう。120 分と時間は比較的余裕があるので、焦らず論旨を読み取ることを意識しましょう。また、自由英作文は少しやるだけで結構な点が取れるお得な問題です。練習しておいて損はないです。解く順番、時間配分は人それぞれですが、僕は文法と英作文をはじめに 25 分程度で片付けて、長文 2 問で 40~45 分ずつ、確認 5 分程度を目指してやりました。本番で理想の時間配分ができるように日頃から心がけましょう。

共通して言えるのは、ケアレスミスしないよう確認を心がけること、基礎を固めて油断しないこと、そして落ち着いて取れる点を取ることです。当たり前だと思うでしょうが、これができる人が受かります。

大学受験は何が起こるかわかりません。僕は予想以上に失敗してセンターは D 判定でしたが、二次でしっかり目標の点数を稼いで合格しました。逆にセンター A 判定で落ちた人も知っています。油断も驕りも心配もいりません。自信を持って本気で立ち向かえば結果は出ます。

まだ夏です、今からならまだ間に合います。中々結果が出なくても焦る必要はありません。本番で勝てばいいだけの話です。演習を重ねて実力をつけて体調を整えて、センターも二次もしっかり点を取ってぜひ合格をつかみ取ってください。来年皆さんと会えることを心待ちにしています。

情報メディア創成学類 後期入試

情報メディア創成学類に後期試験で合格しました末吉里帆です。この記事を読んで少しでも皆さんが役に立ったと感じてもらえると嬉しいです。

後期試験で合格したという事は、前期試験はどこを受けたのだらうと思うかもしれませんが、前期試験も情報メディア創成学類を受けました。本当にこの学類に入学したかったら是非前期、後期どちらも出願することをお勧めします。ただ、後期で合格した私から言うのも何なのですが、前期で合格出来るよう勉強はしましょう。

なぜ私が後期試験で合格出来たのか考えてみました。すると、センター試験でそこそ点数が取れた事、小論文の練習を高校で行っていた事、英語がそこまで苦手ではなかった事の3つがあげられました。あとは、周りの皆が受験を終え遊んでいる中、後期試験まで諦めない根性は必要だと思います。

情報メディア創成学類の後期試験はセンター試験 900 点と小論文 500 点を足した点数で合否が決まります。小論文がどのようなものかと言うと「数学及び英語の学力を必要とし、論理的思考力、表現能力等を評価」と公式に出ていますがその通りです。大問 1 は英語の文章で数学を解くような問題（単純な和訳の問題もありました）大問 2 はいわゆる小論文の問題というような構成になっています。大問 1 の数学は高校で習う範囲より広いです。初めて見るものが出るかもしれませんが、しっかり英文を読めば理解出来るはずです。過去問には一度目を通しておく方が良いかと思いますが、実際に解くのは前期試験で残念な結果になってしまった後でも、後期試験まで 2 週間あるので間に合うと思います。

受験生としての生活は時には辛いこともあると思いますが、第一志望に合格した自分の姿を想像して頑張ってください。私自身、高校時代は弓道部に所属しており、引退するまでは毎日欠かさず道場に通って稽古していました。他の同輩が引退してからも自らの意思で引退を延ばし、最後の試合まで練習に励んでいました。周りの皆が本格的に受験生として勉強を始め、焦りもありましたが、今では最後までやりきって良かったと思っています。限られた時間だからこそ頑張れることもあると思います。入試までに出来ることを一つずつやっていけばきっと良い結果が待っているはずです。

私は今、大学生になり、周りの人達にも恵まれ、楽しく大学生活を送っています。筑波大学は自分で何かやろうと動き出せば様々な事が出来る環境が整っています。皆さんが将来、自分のやりたい事、学びたいことが出来るよう願っています。

6. 生活体験記

春日民の生活形態には以下の 4 つがあります。

- ・学生宿舍
- ・グローバル・ヴィレッジ
- ・アパート
- ・自宅通学（宅通）

そう聞いて、またこんな疑問も生まれるのではないのでしょうか。

「宿舍ってどんなところ?」「アパートってどうやって選べば…」「宅通って一日をどう過ごしてるのかな」

実際の春日民がどのように生活しているのか、皆さん気になるところでしょう。

ここからは、学生宿舍、アパート、宅通のそれぞれで生活している 1 年次の人にその様子を書いていただきました。メリットやデメリット、一日の過ごし方などについて書かれています。普段春日民がどのような生活を送っているのかを知り、あなたが春日民になったときのかすがらいふ構想をどんどん膨らませてください。

学生宿舍 p.xx

グローバル・ヴィレッジ p.xx

アパート p.xx

自宅通学（宅通） p.xx

学生宿舍

筑波大学春日エリア内に位置している春日宿舍には、知識情報・図書館学類や情報メディア創成学類の学生に加え、医学群の学生も生活をしています。立地は、駅、ショッピングモールのイーアスつくば、ララガーデンつくばに近いです。そんな春日宿舍での生活について紹介します。

設備紹介

▼部屋

- ・1 部屋およそ 6 畳です。
- ・ベッドと机、椅子が備え付けてあります。
- ・コンセントは、窓際に 4 口、部屋の中央付近に 2 口あります。
- ・窓際にテレビのアンテナ線があります（ほかの宿舍では映らないらしい TOKYO MX が映ります）。
- ・そこまで広くはないけれど使い方次第で、居心地はよくなります！

▼補食室

- ・各階にある、共用キッチンです。
- ・洗濯機が 2 つ、乾燥機が 1 つ、2 口のガスコンロが 2 つ、シンクが 2 つあります。
- ・部屋の真ん中には大きな机と 6 個の椅子が備え付けられています。
- ・食事の時に利用することが多いので同じ階の人と交流するチャンスです。

▼談話室

- ・女子棟は 2 階、男子棟は 1 階にあります。
- ・テスト勉強のために友達と集まったりできます。
- ・PC を持ち込んで DVD を見たりできます。
- ・大人数でわいわいするときに使えます。

▼大浴場・コインシャワー

- ・大浴場には 6 つのシャワーと、大きな浴槽があります。
- ・大浴場は毎日 17:00-22:00 に利用できます。
- ・浴槽に湯が張られるのは 2 日に 1 回です。
- ・利用可能時間内に大浴場に入れなかった場合、24 時間利用可能なコインシャワー(100 円 /9 分) が利用できます。
- ・他の宿舎にはタダで利用できる大浴場はありません。
- ・冬の寒い日にわざわざ外へ出る必要がないので、他の宿舎の人から羨ましがられます。

宿舎のメリット

▼7A 棟が近い!!

7A 棟とは、春日民の専門科目・専門基礎科目の授業が多数」行われる、いわば春日民のホームグラウンドです。それに近いという事は、朝はゆっくりしてられるということ！しかし、あんまりゆっくりしていて遅刻しないようにしましょう。

▼寄宿料、水道費、光熱費安い!!

水道代、ガス代は入居時に寄宿料と一緒に一括払い！全部で 26 万円くらいです。つまり、それさえ払ってしまえばガスと水道は使い放題なので、自炊をする際にガス代を気にすることなく料理できます！バリバリ自炊して、自炊スキルをアップしましょう！また、電気代は 3 か月に 1 回徴収されますが、アパートのおよそ 1/3 の価格らしいのでそちらも破格です。

▼急な誘いに対応しやすい!!

急なノリで遊びに行ったり、ご飯を食べに行くことが多い大学生活。そんなとき、門限や終電を気にしないでいい宿舎住まいだと対応しやすい！

▼入学前から友達ができやすい!!

宿舎への入居は、入学式の 2 ～ 3 日前にあります。隣の部屋の人へ挨拶をしに行って、そのまま仲良くなって入学式も一緒に参加することもよくあります。積極的にいろいろな人に話しかけてみましょう！

宿舎のデメリット

▼マナーを守らないとみんなの迷惑!!

補食室での食材、容器の放置は某黒光りする害虫を招くことになるし、深夜の洗濯機、乾燥機の稼働は騒音迷惑になります。マナーを守って生活しましょう。

▼室温調節が大変!!

夏場は暑く、特に梅雨は湿気がひどいです。アイデンや、つくばローカルコミュニティなどの業者で宿舎用のレンタルエアコンを借りることをお勧めします。

▼時間にルーズになりがち!!

7A 棟が近くて移動時間が少ない分、時間についてルーズになりがちです。また干渉する人がいないので睡眠サイクルが崩壊し、不規則な生活習慣になりがちな人もいます。遅刻しそうで不安な人は、友達にドアを叩いてもらうように頼んでおくのも手です。

1 日のスケジュール

▼平日の場合

- 07:30 起床。軽い朝食を済ませ、支度。
- 08:20 部屋を出る。春日エリア外の授業ではこれより 10 分早く部屋を出ます。
- 11:30 昼食。学食で食べたり、弁当を持ってきたり、課題に追われて食べられなかったり……。
- 18:00 6 限終了。サークル行ったり、買い物行ったり……。
- 24:00 就寝。

▼休日の場合

- 08:00 起床。基本的に前日の就寝時間によって起床時間は変わりますが、遅い時間まで寝ていると、起きた時の「休日を無駄にした絶望感」が高いので注意。
- 24:00 就寝。ちゃんと寝ましょう。

いかがでしたか！ここで紹介したことはほんの一例にすぎません！ぜひ自分で宿舎生活をしてここには書かれていない楽しさを見つけてください！

グローバルヴィレッジ

2017 年 4 月から運用開始したシェアハウス型学生宿舎「グローバルヴィレッジ」では留学生と日本人学生が共同で生活しています。A から G 棟までの 7 棟が、女子棟と男子棟に分けて割り振られています。2018 年 4 月からはさらに 4 棟の運営を開始する予定で、現在建設中です。留学生は 3 年目以降も継続して居住できるそうですが、日本人学生は基本的に 2 年契約となっています。生活は 5 人 1 ユニット、どの棟も 3 階建てで、棟の種類は 3 つあります。また、コミュニティステーションは交流の場として多彩な設備を兼ね備えています。例えば、予約なしで使えるオープンスペースではス

グリーンを使用することができます。予約することで使える施設としてスタディールームや和室、コミュニティキッチンがあります。これらの設備はグローバルヴィレッジに住んでいる人なら優先的に利用することができます。本宿舎から春日エリアまでは自転車で約 10 分ほどです。本学へのアクセスも悪くないので、サークルの活動場所が本学にある場合や、総合科目で本学へ行く機会が多い 1 年次の間は住むにあたって便利だと思います。

アパート

アパートに住むという選択

「宿舎かアパートか。」これは多くの新入生が直面する問題ではないでしょうか。筑波大学では自宅通学（宅通民）のほか、学生宿舎（宿舎民）、アパート（アパ民）といった暮らし方があります。私は最終的にアパートを選択し、幸いにもある程度満足のいく生活を送ることができています。宿舎の経験がないため少々偏向があるかもしれませんが、実際にアパートで生活してきた感想や宿舎と比較したメリットデメリット、賢いアパート探しの方法を紹介したいと思います。

メリット

▼完全一人の時間・空間ができる

何といっても完全な一人の時間や空間を持てることが大きいと私は思っています。隣人は全くの他人ですし、アポを取らなければ他人は簡単には来室しません。こういった考えは非社会的というわけでは決してないと思います。どんなに社会的でも、一人で落ち着く場所や時間が欲しいという方は一定数いるのではないのでしょうか？

▼部屋活用の自由度が高い

宿舎より部屋が広い場合が多いです。パーティーを開きますか（開きすぎ注意）？インテリアにこだわりますか？私は望んだ家具がすべて配置できた部屋を見て幸せを感じています。やどかり祭（用語集参照）でも有効な「保管場所」として機能しました。

▼専用の水道やトイレがある

春日宿舎では各部屋に水道関係は無いと聞いています。廊下を少し歩けば得られるとはいえ、自室で自分の好きなタイミングで利用できる自由度は大きいと思います。

デメリット

▼入学当初に感じる交友関係への乗り遅れ

宿舎民は入学式以前から入居作業等を通して友人を作る機会に恵まれます。入学式には既にコミュニティーも??アパ民である他、後期入学・Twitter 無し・LINE 無しで乗り込み不安を感じたのを覚えています。時間が解決してくれるとは思いますが、早く交友関係を広めたい場合は自分から動く必要があるでしょう。

▼生活費が高い

宿舎は寄宿料、電気代が安く抑えられている他、水道等は共同であり生活費が大変安いです。一方アパートは、家賃に差はあるものの宿舎のそれよりは高く、電気・ガス・水道も予想外に高額な場合があります。これらを常に意識して生活するようになっています。

▼助け合いを期待できない

宿舎では、起床が遅い人には友人が声をかけてくれたり気軽に勉強会を開けたり、互いに助け合いがみられます。これは宿舎という形式がなせるメリットでしょう。しかしアパートはまさに自活です。どんなに細かいことでも自分で取り組む必要があります。発生した問題は自分で解決するという意識、これを高く保つ必要があります。

賢いアパート探し

▼費用は？

同じ条件ならばなるべく手頃に住みたいと誰もが考えるはずです。筑波大学生の家賃相場は 3 万円半ばから 5 万円程度と考えられます。また家賃だけで判断せず、それに付加される場合がある管理費や共益費にも着目しましょう。また敷金・礼金といった初期費用の有無や多寡にも気を付け、試算を繰り返して総額を評価しましょう。

▼選び始める時期は？

合格が決まったらすぐにはじめましょう！新入生の数は莫大です。特に前期試験合格発表後、優良物件は飛ぶように契約済みとなります。優良物件に出会うためには、検討を早めに始め、長く調べ続けるのが鉄則です（なんだか結婚相談所ですね……）! 取られたと思っていても突然良い物件が現れることも。ネット上でも物件は確認できますので、遠方の方も積極的に情報を集めるといいですよ。

▼場所は？

春日エリアで学ぶ者としては、やはり本学と呼ばれる天王台よりは春日に近い立地が好ましいでしょう。私は春日 4 丁目の南寄に住んでいますが、ここよりさらに南、具体的には春日 1,2,3 丁目、天久保 1,2 丁目、吾妻などがおすすめです。

▼間取りは？

春日エリアで学ぶ者としては、やはり本学と呼ばれる天王台よりは春日に近い立地が好ましいでしょう。私は春日 4 丁目の南寄に住んでいますが、ここよりさらに南、具体的には春日 1,2,3 丁目、天久保 1,2 丁目、吾妻などがおすすめです。

▼他には？

洗面台がバス一体か独立か・階数・宅配 BOX の有無・防音性・都市ガスかプロパンガスか・ネット無料物件か・スーパー・コンビニは近いのか、日当たりはどうかといった評価基準があります。女性はさらに、オートロックや独立洗面台などの基準もあるかと思います。

まとめ

自分にとってアパート探しはとても楽しい過程であり悩みでした。ご両親だけでお決めになるご家庭もあるかと思いますが、大学生になったらこんなところに住みたいといった希望を糧として勉強に励み、合格後皆さんも積極的に物件を探してみてください。きっと楽しいですよ！入学後の生活を支えるアパート、満足のいく選択になると良いですね。先輩や詳しい方にも聞いてみてくださいね！以上、春 4 アパ民の四家がお送りしました。

自宅通学

筑波大学では、つくばで 1 人暮らしをせず実家から大学に通うことを宅通、宅通している人のことを宅通民と呼んでいます。実家から大学までバスで数十分の人がいれば、毎日片道 2 時間近くかけて電車で登校してくる人もいます。宅通は圧倒的少数派であり、なかなか辛い面が多いのは事実ですが、宅通には宅通の良さもたくさんあります！

メリット

▼家事をやる必要がない

家庭にもよりますが、多くの場合 1 人暮らしの人に比べて宅通は家事に取られる時間が少ないです。課題に追われて疲れている時にも、家に帰りさえすれば栄養バランスのとれた食事が摂れるというのはかなり大きなメリットです。

▼生活のリズムが崩れにくい

つくばに住んでいる人は夜遅くまでサークルをしたり課題をやったりすることが多いですが、宅通民は電車の都合から夜はしっかり寝て、朝きちっと起きる生活を送ることとなるので、週末も朝寝しすぎずに時間を有効に使う習慣がしやすいです。

▼友達の家に泊めてもらえる

宅通が少ないがために、文化祭やサークルなどで翌日早朝に登校しないといけない用事があるときには友達が気にかけてくれることが多いです。ものすごく助かります……。

▼家族に毎日あえる

勉強にサークルにと、忙しい大学生活は楽しいことばかりではありません。ちょっと疲れたとき、話を聞いてくれる人がすぐ近くにいと心強いです。

デメリット

▼朝が早い

もちろん住んでいる場所にもよりますが、大体の場合、つくばに住んでいる人よりも遥かに早く自宅を出る必要があります。必然的に起床時刻も早くなります。TX は守谷行きが多く、つくば行きを一本逃すと次の電車まで 20 分も待たないといけなかったりするので、惰眠を貪るのが好きな身には辛いです……。

▼つくばの人と気軽に遊べない

つくばに行くのに時間がかかるため、週末など、もともとつくばに行く用事がない日には友達と遊びづらいです。また、遊ぶ時にも終電があるので、みんなより早く帰る場合が多くなります。

▼サークルに入りにくい

筑波のサークルは夜遅くまで活動することが多く、宅通民は早抜けせざるを得ない場合が多いです。また筑波大生の大多数が大学周辺に住んでいるため、朝練も他大学より早い時刻から始まります。部活やサークルに打ち込みたい人には圧倒的に大学近辺での 1 人暮らしをオススメします。

最後に一言

1 人暮らしの印象が強い筑波大学ですが、宅通の人も意外といいます。宅通も 1 人暮らしも一長一短なので、自宅から片道 2 時間以内であれば宅通もぜひ検討あれ。

7. サークル どんなサークルがあるの？

筑波大学のサークルは、そのほとんどが

- ・文化系サークル連合会　（<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/wiki/doku.php>）
- ・体育会　　（<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taiikukai/>）
- ・芸術系サークル連合会　（<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>）
- ・一般団体　　　　　・公認学生組織

のいずれかに属しています。逆にいうと、このいずれかに属していない団体はちょっと活動内容が不透明なところもあるので気をつけましょう（すべてがそうとはいえないかもしれませんが…）。

　どんなサークルがあるのかについては、たくさんありすぎてここには書ききれません…（´・ω・`）とにかく、なんでもできるのが筑波大学。運動にも芸術にも文学にも福祉にも、なんにでもチャレンジできます！

学業やバイトとの両立

サークルをやっていたら他のことってできないんじゃないの…？と不安になってい

る皆さんも大丈夫、両立は可能です。筆者もサークルもバイトもしていますが、単位は取っています。

　ただし、サークルには毎日のようにがちがちに活動しているところから、週1日のペースでゆるーく活動しているところまで様々です。バイトも同様。何を優先するのかをしっかり決めて、自分に合ったサークルを選びましょう。両立できるかできないかは自分次第です。大学生ですからね。

「部」と「サークル」

サークルをやっていたら他のことってできないんじゃないの…？と不安になってい

る皆さんも大丈夫、両立は可能です。筆者もサークルもバイトもしていますが、単位は取っています。

　ただし、サークルには毎日のようにがちがちに活動しているところから、週1日のペースでゆるーく活動しているところまで様々です。バイトも同様。何を優先するのかをしっかり決めて、自分に合ったサークルを選びましょう。両立できるかできないかは自分次第です。大学生ですからね。

新歓について

入学後すぐに新入生歓迎祭が始まります。新入生歓迎祭とは、新歓祭本祭と5月末まで行われる新歓祭月間の総称です。新入生のみなさん……タダ飯のチャンスです！（笑）4月の食費が恐ろしく安くなる、なんてことが普通に起こります。もちろん、自分の入りたいサークルの雰囲気を知る大事な機会です。ただし、新歓に便乗して怪しい団体から声がかかってくることもあります。しっかり情報を確認して、自分の身は自分で守りましょう。

　新歓の様子や参加団体は筑波大学新入生歓迎祭のページ (<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~shinkan/>) から確認することができます。気になった人はチェックしてみてください。

8. アルバイト アルバイト時期

　この項目を見ているみなさんの大多数はきっと「バイトは大学生活に慣れてから……」と考えているのではないでしょうか？はっきり言います。「甘い」です。まだいい、テストが始まるから。サークルの合宿があるから。新学期の授業に慣れてから。どんどん先延ばしにしてしまった結果何もしない、なんてことになりかねません（もちろん人によります。）。また、夏休みに始める人も多いようですが、学生にとって一番の稼ぎ時である長期休暇を研修期間という時給が低い状態で迎えることも損をしているように思えます。大学生活もバイトをしている、していないによって大きく様相を変えてきます。正直いって、1年の春Cモジュールなんてものは、バイトをしていないと、暇で暇で仕方ありません。逆に、バイトをしていることで課題提出まで効率的に課題に取り組むことが身に着いたりします（土日にバイトがあるため「土日にまとめてやろう」などと言い訳できないので）。また、大学生活に慣れるように、バイトも慣れてしまえばどうということはありせん。むしろ楽しくなってくると思います。楽しいことをやってお金をもらえるなんて最高じゃないですか？ですが、もちろんアルバイトは強制ではありません。サークルや友達と遊んだりしたいですよね？せっかくの大学生活です。有意義な時間の使い方をしてください（家で寝ているだけならバイトすべきです）。

給料について

　いかなる条件でバイトをしているかによって異なりますが、土、日6時間勤務でだいたい月で4～5万円というところが目安となるでしょうか。週5、6勤すれば…いろんな夢が見えますね！しかし、大事なことを忘れないでください。優先すべきはお金ではなく、己の健康や、学業であります。このことを忘れずみなさんも楽しいバイト生活を送ってもらいたいと思います（とある先輩の感想です）。

バイトの種類

飲食店

　まかないを食べることができたりします。キッチン業務は時給800円～900円ぐらいが相場。若干高めです。ホール業務はキッチンと違い接客業なので人とのコミュニケーション能力を求められます。キッチンより若干時給が低いところが多いです。割と競争率が高く、ホールで希望を出したのにキッチンしかあいておらず入れられるなんてことも。

塾講師・家庭教師

　大学生が行う一般的なバイトの中ではトップクラスの時給を誇ります。しかしその実、報告日誌作成、授業準備等、時給が発生しない業務時間が多かったりするので他の一般的なバイトとたいして差がなくなってしまうこともあります。また営業形式上毎週決まった時間に拘束されるため、急に予定が入ったときなど対応力が低いのがネックです。

ショップ販売員

　時給もそこそこ、服も汚れることはまずないです。まかないがないため働くたびに昼食代がかさむということがデメリットかもしれません。時給も飲食店と遜色ないところが多く割とお勤めのバイトです。

9. 筑波大学の一年間

四月

■**宿舍入居**

宿舍は春日、追越、一の矢の各地区ごとに入居日が決まっています。入居日のイオンには臨時バスが出るほど。

■**入学式・新入生歓迎祭**

各学類やサークルで新歓祭が行われます。色々なイベントに参加すると友達が増えるよ！

五月

■**春季スポーツ・デー**

スポーツ・デーとは春季と秋季の年2回行われる行事です。有志参加で、様々な球技やミニゲーム、スポーツ写真コンテスト等も行われます。運営しているのはスポーツ・デー委員会です。

■**やどかり祭**

宿舍祭ともいいます。1年次の出店が多いお祭りです。これを通して恋の季節がやってくるとかこないとか。まあ人によりけりですね。

六月

■**春 AB モジュール期末試験**

1年次、最初の山場。春 AB モジュールに授業が集中しているのできついです。これを乗り越えると授業が比較的少ない春Cモジュールに突入します。友達と協力して乗り切りましょう。

八月

■**春 ABC モジュール期末試験**

■**夏季休業**

十月

■**全学停電**

安全点検のため、毎年、全学規模で停電があります。もちろん宿舍も真っ暗です。

冷蔵庫……orz

十一月

■**雙峰祭**

通称「雙峰祭（そうほうさい）」。

3日間にわたって行われる、大規模なお祭り。筑波大の広大なキャンパス中で模擬店などが出店されます。

お店を出しているのはサークルだったりクラスだったりゼミだったり。

運営しているのは筑波大学学園祭実行委員会（通称は実委）の現役生やOBやOG。

■**秋季スポーツ・デー**

春季スポーツ・デーとほぼ同じイベントです。多少種目が変わります。

十二月

■**秋 AB モジュール期末試験**

■**冬季休業**

二月

■**秋 ABC モジュール期末試験**

■**春季休業**

三月

■**卒業式**

10. 学費・宿舍・奨学金

平成 29 年度の授業料・宿舍費・奨学金について簡単に説明します。

学費

入学料	282,000 円
授業料（第 1 期・第 2 期	各 267,900 円
年間授業料合計	535,800 円
1 年次には入学料 + 授業料で約 80 万前後の納入、2 年次以降は年間約 50 万ずつの納入になります。ただし、条件がそろった場合、授業料の全額または一部免除及び入学料の全額・半額免除制度があります。	

奨学金

毎年 4 月中旬に日本学生支援機構申し込み説明会が開かれます。その時に配布される資料に必要事項を記入し、大学に提出することで奨学金の申請ができます。

奨学金を申請しようと思っている人は早めに奨学金について詳しく調べ、書類を受け取ったら、なるべく早く完成させ、余裕を持って提出した方が良いでしょう。

日本学生支援機構の公式 Web ページ <http://www.jasso.go.jp/>

春日宿舍

宿舍費	19,615 円 / 月
保証金	30,000 円 / 年
年間合計	265,380 円
宿舍ではガス代・水道代は宿舍費に組み込まれていますが、別途電気代は発生します。しかし、いくら電力を消費しようとも月に 1,000 円を超えることは滅多にないというほど安いです。	

11. 筑波大学の施設

①一の矢宿舍

第二、第三エリアに通う学生が使うことの多い宿舍です。キャンパス内で最北端に位置するこのエリアは春日から最も離れた施設になりますが、遊びに行くこともあるので訪れる機会は意外と多いです。

③第一エリア

人文・文化学類、地球学類、数学類などが使用しているエリアです。建物が棟ごとに色分けされているので大変鮮やかです。講義が集中している時間帯は辺り一面が自転車で埋め尽くされます。中央図書館の手前があるので春日民も通過することが多いです。

⑤第三エリア

国際総合学類、工学システム学類、情報科学類などが使用しているエリアです。第二外国語の一部はここで授業が行われており、また同じ情報学群に属する情報科学類が主に使用しているため、比較的春日民も訪れることが多いです。

⑦医学エリア

その名の通り医学類、看護学類、医療科学類が使用するエリアです。大学病院もこの中にあります。他の学類の学生が中に入るには特別に許可を得る必要があり、謎に包まれたエリアです。

②追越・平砂宿舍

主に医学エリアや体芸エリア、第一エリアに通う学生が使っている宿舍です。やどかり祭の開催地ともなります。一部の知識・メ創の学生もここに入居しています。

④第二エリア

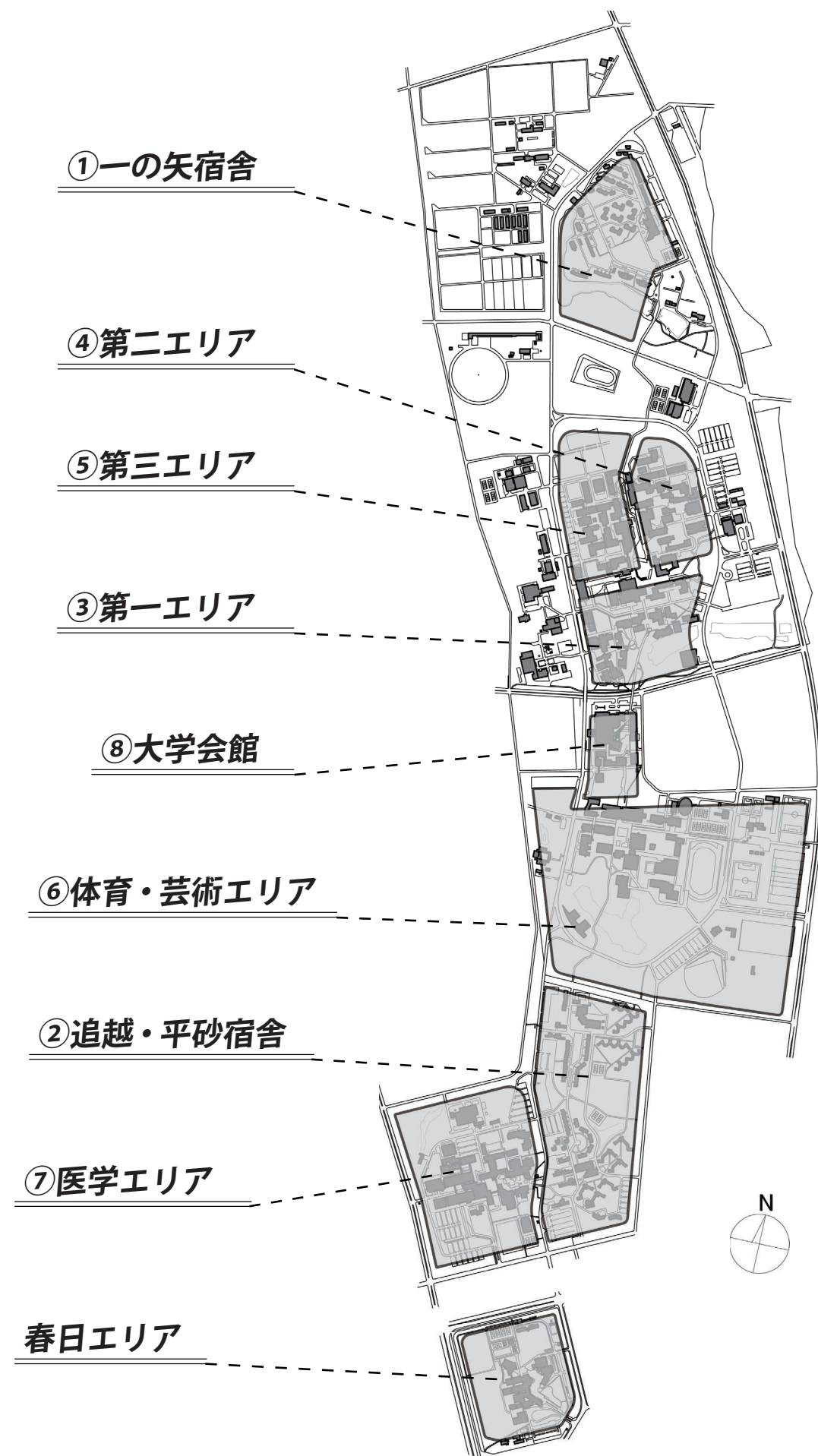
障害科学類、生物学類などが使用しているエリアです。春日民が立ち入ることはそれほど多くありません。大変入り組んでいるので、たまに訪れた春日民が迷子になって発見されることが割とよくあります。

⑥体育・芸術エリア

体育専門学群、芸術専門学群が主に使用しているエリアです。さすが芸術、建物が白くて綺麗です。

⑧大学会館

講堂や会議場などが配置された建物です。入学式などの式典や全学規模での説明会はここで行われます。



11. 春日エリアの施設

①体育館

図情バレー部や図情バスケ部が使用しています。が、はっきりいってしまうとサークル以外で春日民はあんまり利用しないかも。

③講堂

ステージと客席を備えた中規模ホールです。説明会や一部の集中講義ではこの施設を利用しますが、あまり利用頻度は高くありません。

⑤ラウンジ

食堂のとなりにあるフリースペースです。ちょっとした集会や会議のときはここに集まります。パンやカップラーメンなどの自動販売機が置いてあり、24 時間開放されています。学生の強い味方です。

⑦春日食堂

豚丼やカレー、うどんの他に日替わり定食などがあります。価格は 300 ～ 500 円くらい。本学の食堂よりは混んでいないと思います。営業時間も他の食堂より短いのでいろいろ意味でレアかも！

⑨情報メディアユニオン

大学院の研究室があるほか、様々なメディア関連機材が配置された「クリラボ」なる素敵な部屋があります。知識情報・図書館学類生、情報メディア創成学類生は 1 年次からここで講義があります。また講演会や発表会が開かれることもあります。

②春日宿舍

主に春日エリアの学生が使っている宿舍。詳しくは「生活体験記」参照。

④書籍部

教科書、雑誌や文房具などを販売しています。全て定価の 1 割引です。実は春日の書籍部だけ漫画が置いてあるんです。もちろん 1 割引です。

⑥シンデレラ階段

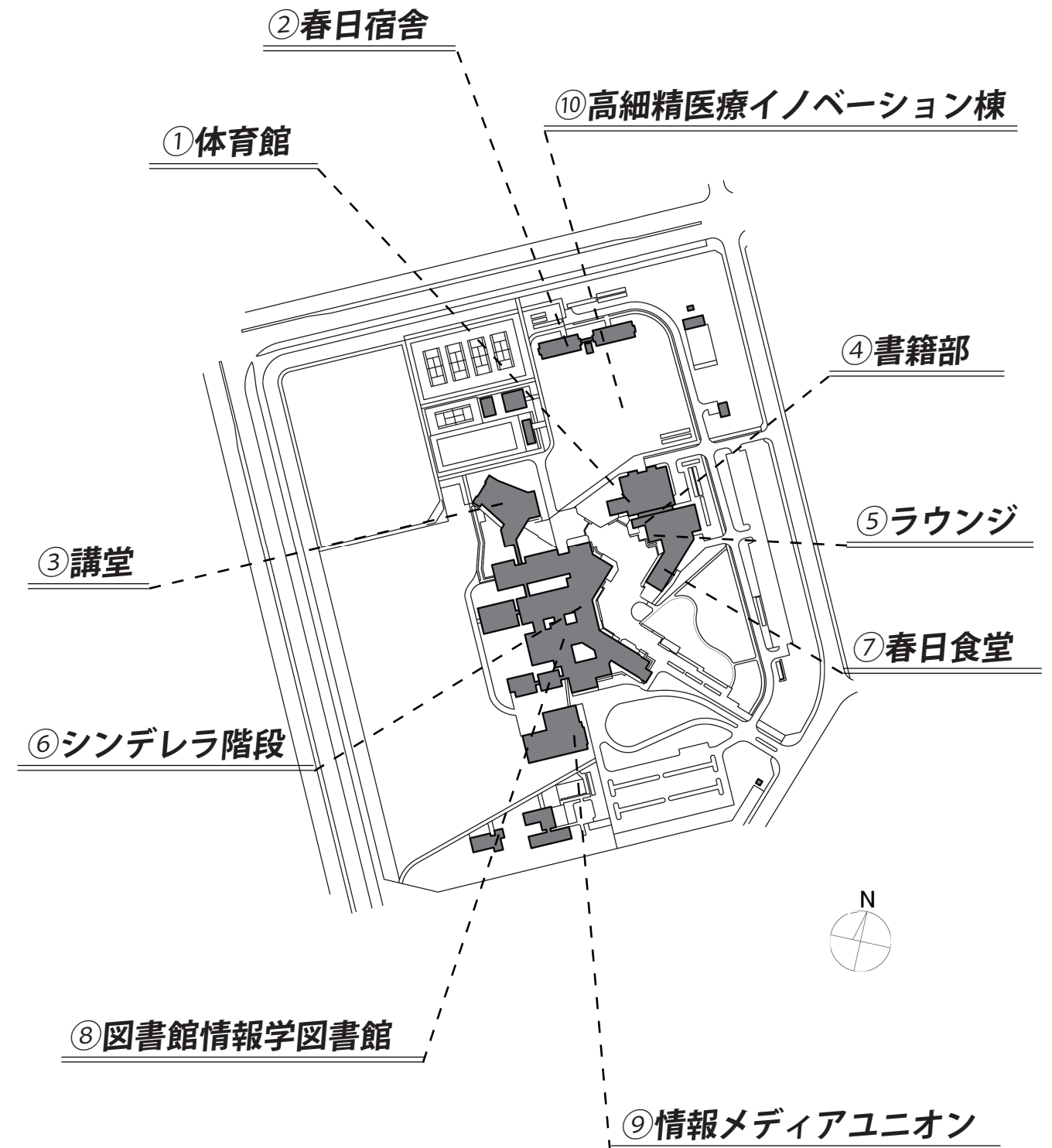
7B 講義棟のロビーに備えられた階段の通称です。あんまりシンデレラっぽくはない。よく学生の集合場所にも指定されます。

⑧図書館情報学図書館

「筑波大学附属図書館」のページを参照。

⑩高細精医療イノベーション棟

春日宿舍の近くに建つ非常に綺麗な建物。医学関係の施設であるため春日民にはあまり関係がないです。



13. 筑波大学附属図書館 中央図書館

第一エリアと第二エリアの間にある、筑波大学内で一番大きな図書館です。5 階建て。図書だけでなく雑誌や映像資料も豊富です。スタディスペースもあり、授業と授業の合間に勉強する人も多いです。基本図書館にはパソコンもあるので、パソコンを使わなければならないレポートも図書館にこもって仕上げることができます。ちなみに入り口にスターバックスがあり、お腹をすかせた学生たちをいつも誘惑しています。

体育・芸術図書館

体芸エリアにある図書館。春日の学生は体育の後にたまに利用したりする人もいます。他の図書館よりデザイン性のあつ造りをしている（気がする）ので、見学に行くとも面白いと思います。自習スペースはとても静かで落ち着いていて、自習にはもってこいの場となっています。オススメです。

医学図書館

医学エリアにある図書館。残念ながら筆者は行ったことがありません。行ったことがある人に聞いたところ、勉強している人が多いので、モチベーションが上がるそう。他の図書館とは開いている時間が違ったりすることがあります。

図書館情報学図書館

春日エリア内にある図書館。通称図情図書館。2 階建て。図書館学に関する図書や雑誌を多く所蔵しています。小規模ですが、こもりやすいです。2 階にはセミナー室があり、学生同士の話し合いの場として活躍しています。

春日ラーニングコモンズ

図書館情報学図書館の中にある小スペース。全学計算機やディスプレイ、ホワイトボード、テーブルなどが配備されており、誰でも利用できます。また、平日の 16:30~19:30 には、講義や履修に関する質問を受け付けるチューターさんが在室しているので、講義や履修についての質問をすることもできます。積極的に利用しましょう。

大塚図書館

東京キャンパスにある図書館。学類生のうちはあまり利用することはないと思われます。

14. 用語集

▼あ行

- 天久保〔あまくぼ〕
地名。筑波大生が多く生活している。
- アパ民〔あばみん〕
アパートに住んでいる人。
- 1 学・2 学・3 学〔いちがく・にがく・さんがく〕
それぞれ第 1 エリア、第 2 エリア、第 3 エリアの通称。学群・学類再編前のナンバー学群の名残。
- 一の矢〔いちのや〕
地名。または、一の矢宿舎のこと。春日民にはあまりなじみがない。団地のように広い。猫が人懐こい。
- イノベーション棟〔いのべいしょんとう〕
春日エリアで最も高く、きれいな建物と言われている。しかし、医学関係の施設であるため、春日民はあまり関係がない……。
- エクストリーム移動〔えくすとりにいむいどう〕
春日と本学の間を 15 分（休み時間）で移動すること。遥かなる旅路……。
- LT〔えるてい〕
ライトニングトークのこと。情報メディア創成学類の伝統行事である。5 分ほどの短い時間で趣向を凝らしたプレゼンを展開する。
- 追越〔おいこし〕
追越宿舎。春日民（←か行参照）が入居することもある。

▼か行

- 学内バス〔がくないばす〕
正式名称 学内循環バス。ループ(←ら行参照)を走る。筑波大生は年間 8,600 円で乗り放題。時間通りに来ないことが多い。
- 春日〔かすが〕
1. つくば市内の地名。
2. 筑波大学筑波キャンパス春日エリアのこと。
3. 知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の総称。

- 春日食堂〔かすがしょくどう〕
春日エリア内にある食堂。通称かすしょく。味は日進月歩。ぜひお試しあれ。
- 春日民〔かすがみん〕
春日エリアで授業を受けている人たちの総称。主に知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類の学生を指す。
- 春日ラーニングコモンズ〔かすがらあにんぐこもんず〕
通称 KLC。図情図書館の中に存在する。院や、学類の先輩方（チューター）が、課題の相談などにのってくれたりする。全学計算機（←さ行参照）なども置いてある。
- クラ代〔くらだい〕
クラス代表者会議。春日エリアでは、知識情報・図書館学類と情報メディア創成学類が合同で春日地区クラス代表者会議として、春日エリア内のあれこれを改善するため、日々活動している。
- 掲示板〔けいじばん〕
春日であれば特に 1F に多く配置されている。掲示室なるものも存在する。平成 29 年度から掲示情報は WEB 上に移動したため、現在ではイベント等の告知に利用されている。
- 粉クリ〔こなくり〕
体芸エリア・2 学・3 学に存在するパン屋。春日にはない（重要）。美味。朝にはバイキングを行っている店舗もある。
- klis〔けいりす〕
知識情報・図書館学類の英略称。正式名称は、Knowledge and Library Sciences。

▼さ行

- 実習室〔じっしゅうしつ〕
機室、サテ室とも。パソコンが沢山置いてある教室。課題をやったり、娯楽のためにパソコンを使いにくたり、その使用目的はさまざま。7C202(←な行参照) は 24 時間空いており徹夜にはもってこい。（別荘としている人もいるらしい……。）

●**宿舍民**〔しゅくしゃみん〕

宿舎に住んでいる人のこと。詳しくは生活体験記で！

●**シンデレラ階段**〔しんでれらかいだん〕

1階と2階とをつなぐ、大きな階段。その形状からシンデレラ階段と名がついた。待ち合わせによく使われる。王子様は……心の中に。

●**新歓**〔しんかん〕

新入生歓迎祭の略。春日エリアでも、春日ツアー・レクリエーション・運動会・バーベキューなどが催されます。ご期待ください。詳しくは「春日地区新入生歓迎会」で検索！

●**全代会**〔ぜんだいかい〕

全学学類・専門学群代表者会議の略称。通称Z(ゼット)。クラス代表者会議の代表が集う、生徒会の化け物のようなもの(あくまでもイメージ)。この人たちのお陰で筑波大生は充実した生活が送れている(はず)。

●**全学計算機**〔ぜんがくけいさんき〕

筑波大学の学生が使えるパソコンのこと。パソコンを計算機という呼び方に慣れていない人は、最初は何のことかさっぱりわからない。結構ハイスペックで色んなソフトも入っているので、授業以外に使ったりすることも。

●**雙峰祭**〔そうほうさい〕

11月頃に3日間にわたって行われる、筑波大学の学園祭。実行委員は学実委と呼ばれる。1日では回りきれないほど規模が大きい。

▼た行

●**宅通**〔たくつう〕

自宅から大学へ通ってくる人の通称。多苦痛と書くこともある。詳しくは生活体験記で！

●**知識**〔ちしき〕

知識情報・図書館学類の略称。klis(ケーリス)と呼ばれることも。

●**Twitter**〔ついったあ〕

春日民の大事な情報ツール。ツイ廃、ふぁぼ、RT、TL、規制という言葉が常識となっていく日常。春日は筑波大学内でもツイッター普及率がすごい。先生方もアカウントをお持ちです。また、知識情報・図書館学類の非公式のアカウントもありますのでご参照ください。

●**つくばっく**〔――〕

帰省先からつくばに戻ってくること。

●**TX**〔ていえっくす〕

つくばエクスプレスの通称。秋葉原まで最短45分。自宅からの通学で利用する人もいる。

●**図情図書館**〔とじょうとしょかん〕

図書館情報学図書館の略称。筑波大学附属図書館のひとつ。その他に、中央図書館、医学図書館、体芸図書館などが存在する。勉強や昼寝をしたり、使い方は人それぞれ。

▼な行

●**7A205**〔ななえいにいまるご〕

春日エリア内で最も大きな教室。知識情報・図書館学類では1年生の間はここで授業を受けることが多い。

●**7C202**〔ななしいにいまるに〕

実習室3、情報メディア創成学類の全学計算機室(サテライト・機室)(←さ行参照)。知識情報・図書館学類生も利用することができる。24時間開室している。

▼は行

●**平砂**〔ひらすな〕

平砂宿舎の通称。スラムと呼ばれる棟は色んな意味で有名。

●**ペデ**〔べで〕

ペDESTリアンデッキの略称。筑波大学の中を縦にまっすぐ通る道。本学(←二つ下の項目参照)への行き来によく使う。信号がないのでスムーズに移動可能だが、時間帯によっては大混雑も。

●**ほけかん**〔――〕

保健管理センターの略称。学生は基本的に無料で診察を受けられる。

●**本学**〔ほんがく〕

第1、2、3エリア(←あ行参照)等の通称。春日エリアから自転車で約15分。1年次だと授業だけでかなりの時間を過ごす。しかし3年次以降になると全く利用しない人も……。

▼ま行

●**マジック**〔まじっく〕

行事等で苦勞を共にした男女がカップルになること。「やど祭マジック」、「クラ代マジック」、「雙峰祭マジック」などがある。詳しくは入ってから先輩に聞くと良い。

●**mast**〔ますと〕

情報メディア創成学類の英略称。正式名称はMedia Arts, Science and Technology。

●**メ創**〔めそう〕

情報メディア創成学類の略称。創成、mast(←一つ上の項目参照)と呼ぶ人もいる。

▼や行

●**やどかり祭**〔やどかりさい〕

入学して初めての大きな行事。宿舍祭とも言う。主に1年次を中心に出店したり御輿を作ったりする。ミスコン、もとい「ゆかコン」なるものが開催される。新入生がたくさんの人と交友関係を深めるチャンス！

▼ら行

●**ラウンジ**〔らうんじ〕

春日食堂横にある24時間自由に使えるスペース。パンやカップラーメン等の販売機がある、学生の強い味方。

●**ループ**〔るうぷ〕

学内バスが通る道路のこと。けっして舗装は綺麗ではないが、ペデは坂道が多いので自転車だとこちらの道を好んで通る人がいる。雨の日は水が溜まりやすいので水没に要注意。

編集委員

Web 版のため省略

特別寄稿

歳森 敦 先生 (知識情報・図書館学類長)
平賀 譲 先生 (情報メディア創成学類長)

Special Thanks

情報メディア創成学類の教職員の皆様
知識情報・図書館学類の教職員の皆様
図書館情報エリア支援室の皆様
春日地区クラス代表者会議
過去のかすがらいふ編集委員の皆様
その他、ご協力いただいたすべての皆様



kasuga-life